

二十四輩順拜圖會

越中 越後

三





二十四輩順拜圖會卷之三

目錄

○越中之部

善徳寺

本願寺用本を代出凡圖

超願寺

慈恩寺

東弘寺

持專寺

徳法寺

○越後之部

市振の溪

宝坂寺

蓮如法

舟波園

勝興寺

極性寺

願海寺

三本抄

大雲寺

人形山

五箇山

天極石

名古の海

柳如上人書讀後

右國府之溪

順徳帝御幸

極成寺

淨永寺



巨多之濱
光源寺
川城名号
東流御坊

園分寺
奉誓寺
常敬寺

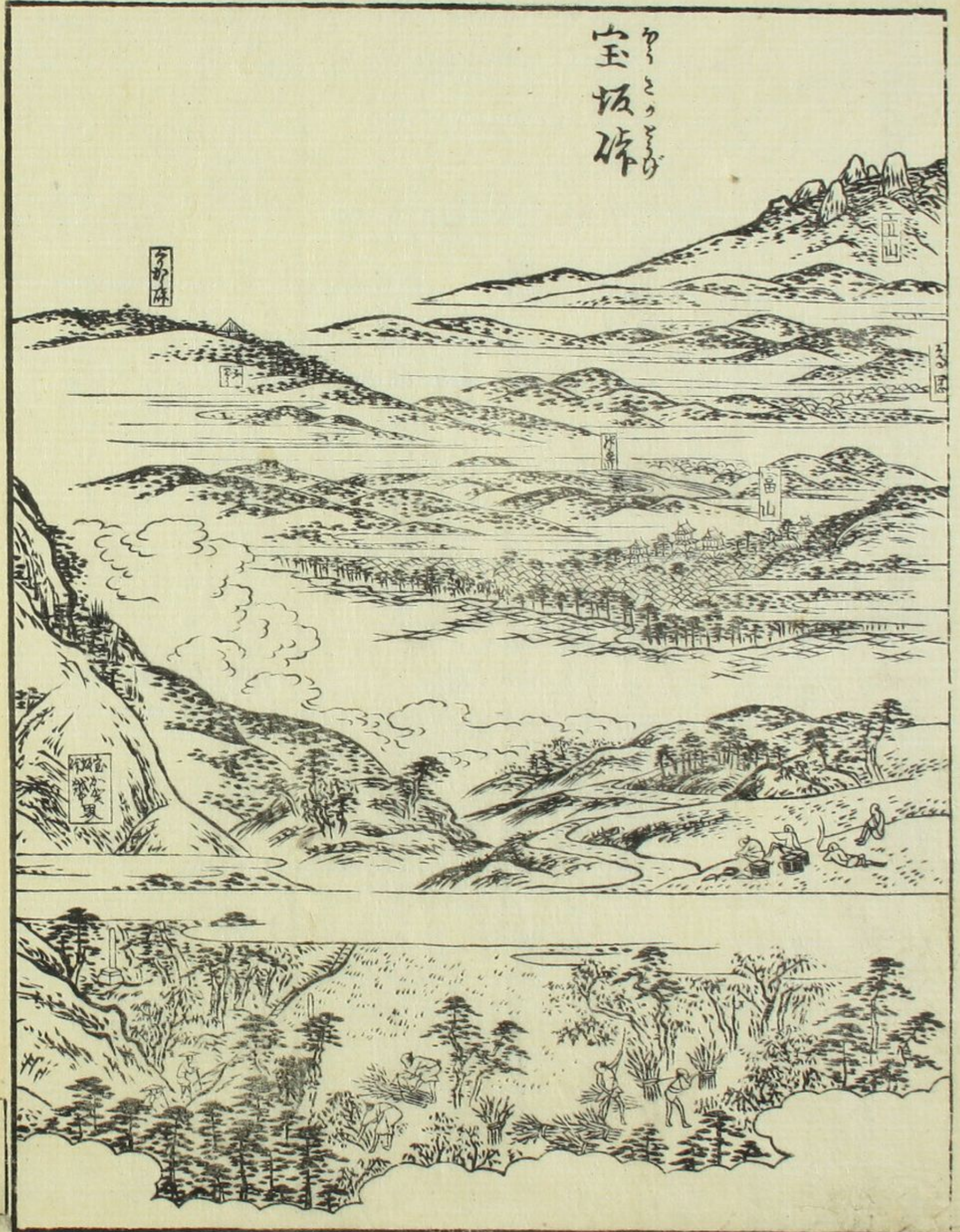
大場村御田跡
淨興寺
性宗寺

以上

二十四輩順拜圖會卷之三

城中國

加賀の全領より城の中今石動まで七里半西園の境と後馬場といふ藤原山俱梨
伽羅跡信祖の跡ありけり昔永二年本曾義仲の國より義兵を
揚げ都として討登り平家十余万の大軍と戦ひて右方より
右の方と源氏が軍と闘へり即義仲の陣石の法あり垣生の八幡宮を
親仲が美坊光明と命じて御書と書し其處に御書と書し御書を請
ふにその書と本曾の御書と今も傳来せりといふ傳り
廓龍山若徳寺 本流御坊 加賀の國二侯の宮より城の中後光と經て約
八里渡路小なりけるより城の中へ入るふは俱梨伽羅跡と城に三里離
るといふ茶畑の下に谷間と通ひて大難石の泥路あり
尚寺の本殿寺并八世蓮如上人文明三年城を去修し御在任の御
草創ありかゝる阿弥陀如来 蓮如上人 十名名号 御山聖人 聖人御教を
七高僧御 蓮如上人 其入余靈室教品これと略し 御真名 当地の水は谷あり
て此に神名の数あり名付て念佛谷といふ又西に流るる水は毎夜
強先を現れ名づけて燈明ヶ淵といふ天心の始也織田信長本殿寺と
飛指の御時乃燈藏の泡流石山麓城ははたきき働きあり其功

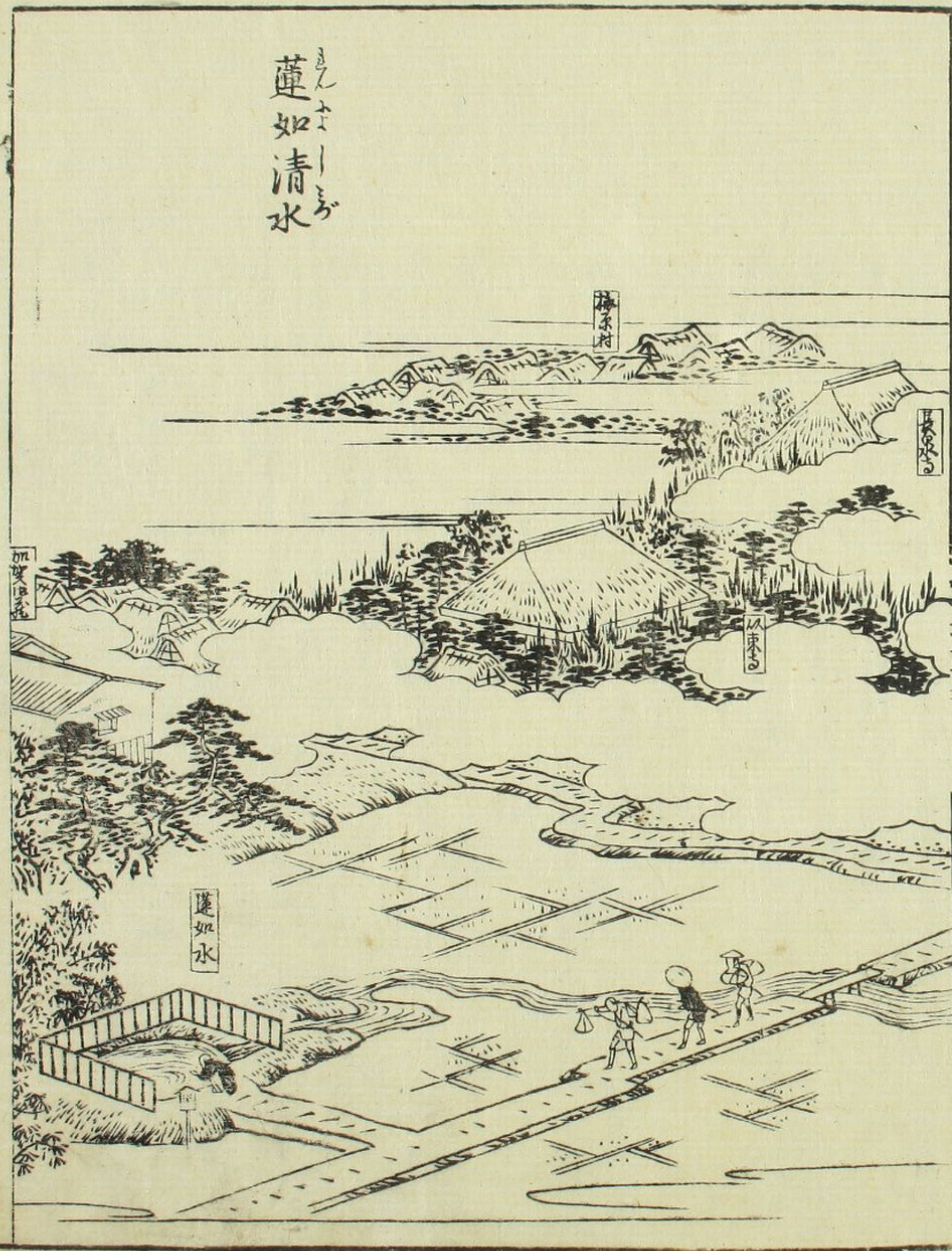




廓龍山
善德寺



蓮如清水



依音塚



うらふふと人教如上人河内自他の遺如上人の河内傳并、教道の感狀を
 編、日十年三月下旬教如上人按察後法橋富良、悦後守の河内
 て山地向う、寺又教日河内清富河化守ありて其妙釋清を
 るの終、是より本教寺乃河内不として今又法脈をお存せり

其の國二候より砂ま谷と聲て富國板谷乃四所あり、一瓊せ終るわく山不
 て板橋より一里余赤木と守村より一里余其不板本家の庭より一里余を
 あり上人の法身して使へまうせ、其法流式古傳門方より著配老老
 候よ終る暇人よまうけ終後の法を習ひ親し席して是とて世業を以
 其の画の多敷る本らごふて罷りきりつごふて世人を存りと終
 一筆をこれと書む今も其子孫其法を傳へて業をせり
 板橋より一里余赤木と守村より一里余其不板本家の庭より一里余を
 まより終るの終人よまうけして湯を温ひけはあ、後若蓮如上人如
 笑の國二候より砂ま谷と聲て富國板谷乃四所あり、一瓊せ終るわく山不
 て板橋より一里余赤木と守村より一里余其不板本家の庭より一里余を
 あり上人の法身して使へまうせ、其法流式古傳門方より著配老老
 候よ終る暇人よまうけ終後の法を習ひ親し席して是とて世業を以
 其の画の多敷る本らごふて罷りきりつごふて世人を存りと終
 一筆をこれと書む今も其子孫其法を傳へて業をせり
 板橋より一里余赤木と守村より一里余其不板本家の庭より一里余を
 まより終るの終人よまうけして湯を温ひけはあ、後若蓮如上人如
 笑の國二候より砂ま谷と聲て富國板谷乃四所あり、一瓊せ終るわく山不
 て板橋より一里余赤木と守村より一里余其不板本家の庭より一里余を
 あり上人の法身して使へまうせ、其法流式古傳門方より著配老老
 候よ終る暇人よまうけ終後の法を習ひ親し席して是とて世業を以
 其の画の多敷る本らごふて罷りきりつごふて世人を存りと終
 一筆をこれと書む今も其子孫其法を傳へて業をせり

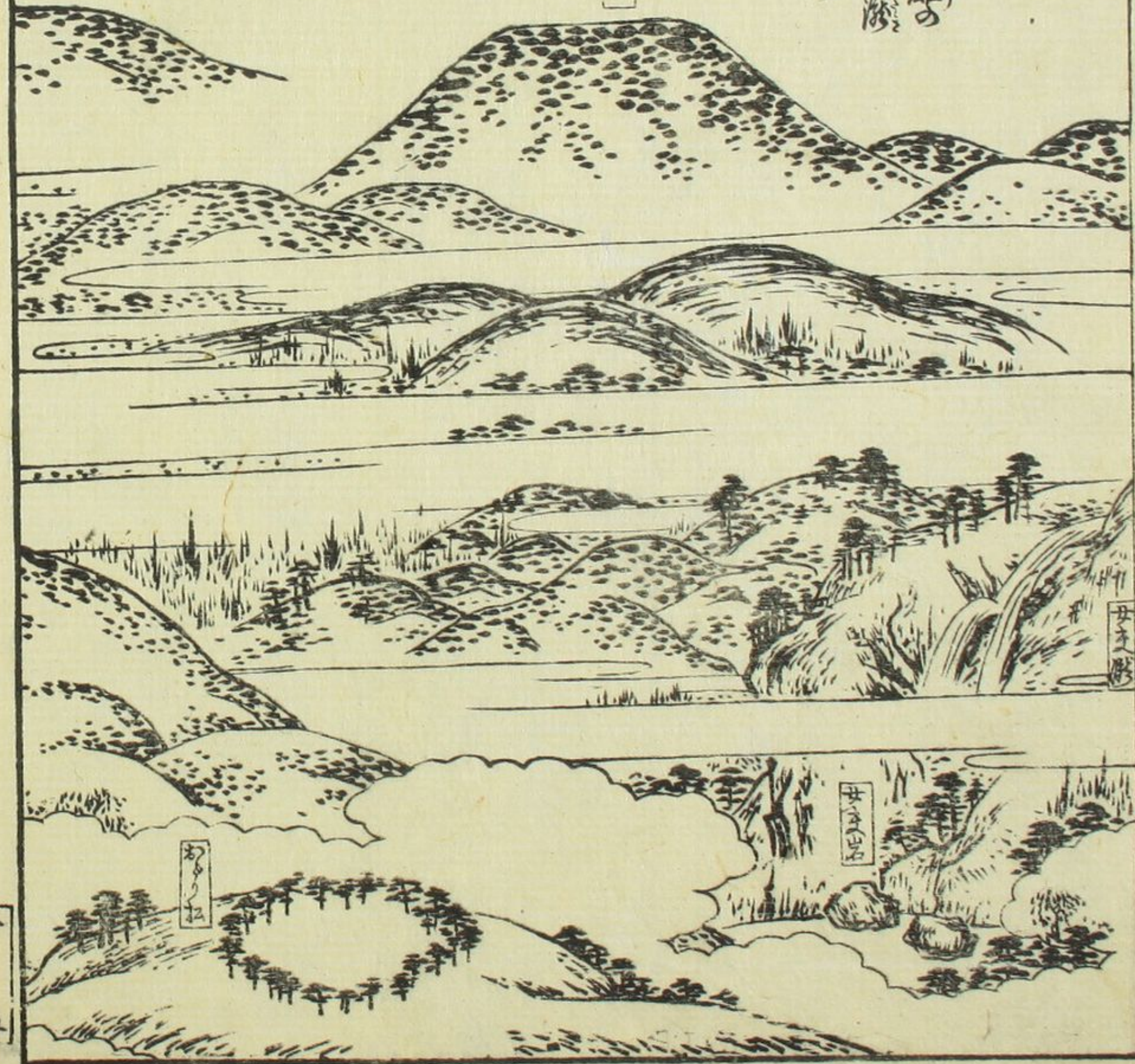
とはは儀も曾て信あつたのぶほ、蓮如上人河内板谷を以て別之地と穿ら
 終り、上人の九傳小つとる伝知り、急き己が房小具、一帯せ板ま、
 河内守又終り、路と信心と終り、終り改定して河内守子と知り、と人より
 各所伝、則一守り守と建定、守守山徳信寺と、遂に今
 尚其寺、河内信あつた本板乃信あつた、蓮如清水と終り、終り
 派傳代より六里斗、人形、入る大山あり、日月の尺階の、り、り
 凍雪人の、の、く、は、して、る、小、の、候、て、人、と、人、形、を、と、
 の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
 終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、
 て、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、終り、
 五箇山、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、
 雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、
 河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、
 あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、
 候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、
 ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、
 く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、雄津山、
 河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、河内、
 あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、あり、
 候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、候、
 ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、ひと、
 く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

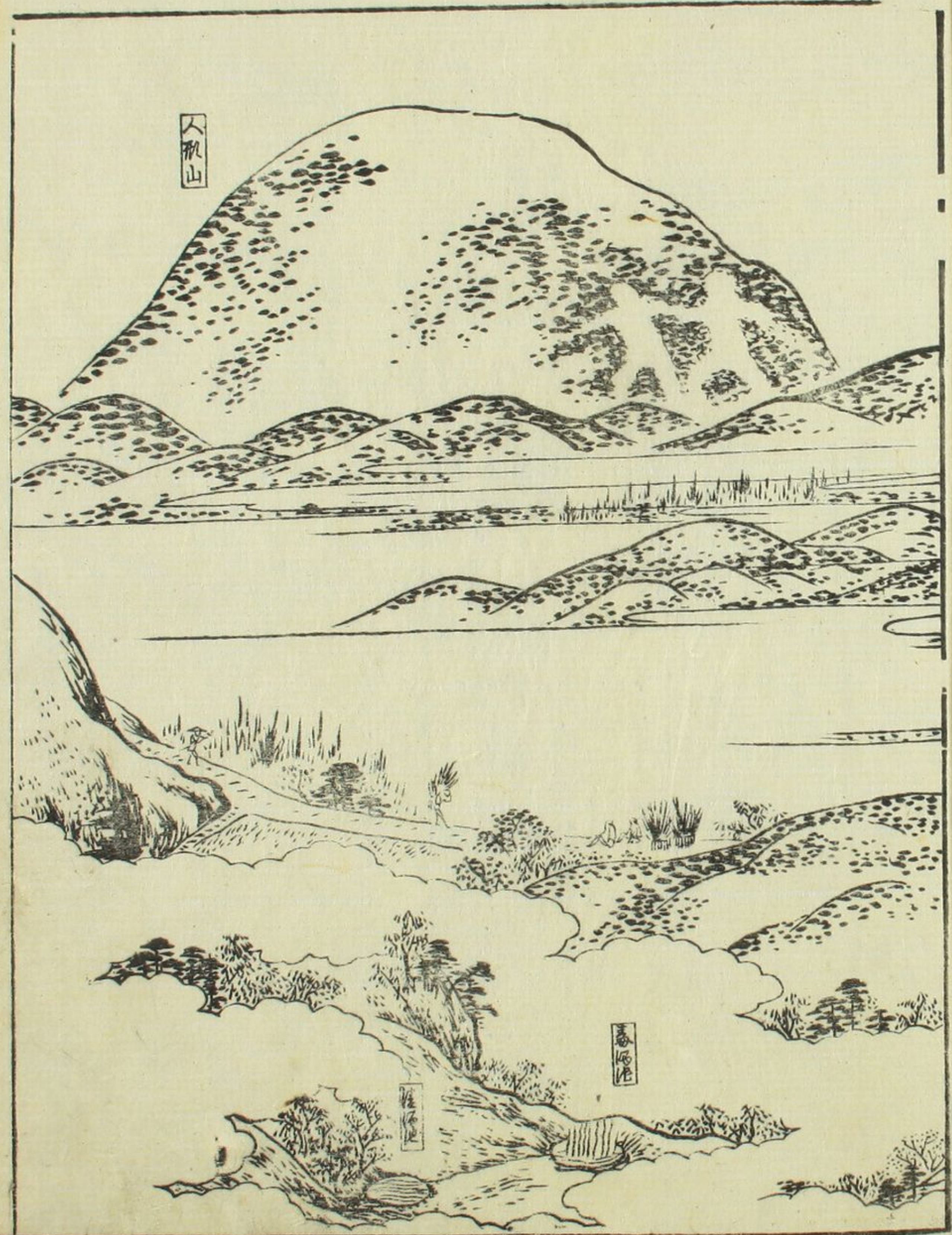
人形山

女ま湯の若松村あり雌雄の
 二流ありいあると人のつる山
 流の雌雄おまへていこの山
 と名とりあふ女まの名のと
 る又女ま岩あり若し女ま
 男ままひまうが流の流で
 まつとつり
 彌松の松の村の山上の
 松の松の葉ありて其ま
 人の躍るごとく
 け林の村より三丁斗山腰
 二つの水たりを酒泉と云
 其一ツの濁酒と名一ツを
 清酒と名濁酒は白く
 して毒あり清酒は青く
 乃ちありて酒の香あり
 香然これを飲ん
 酔ひて倒る
 たり

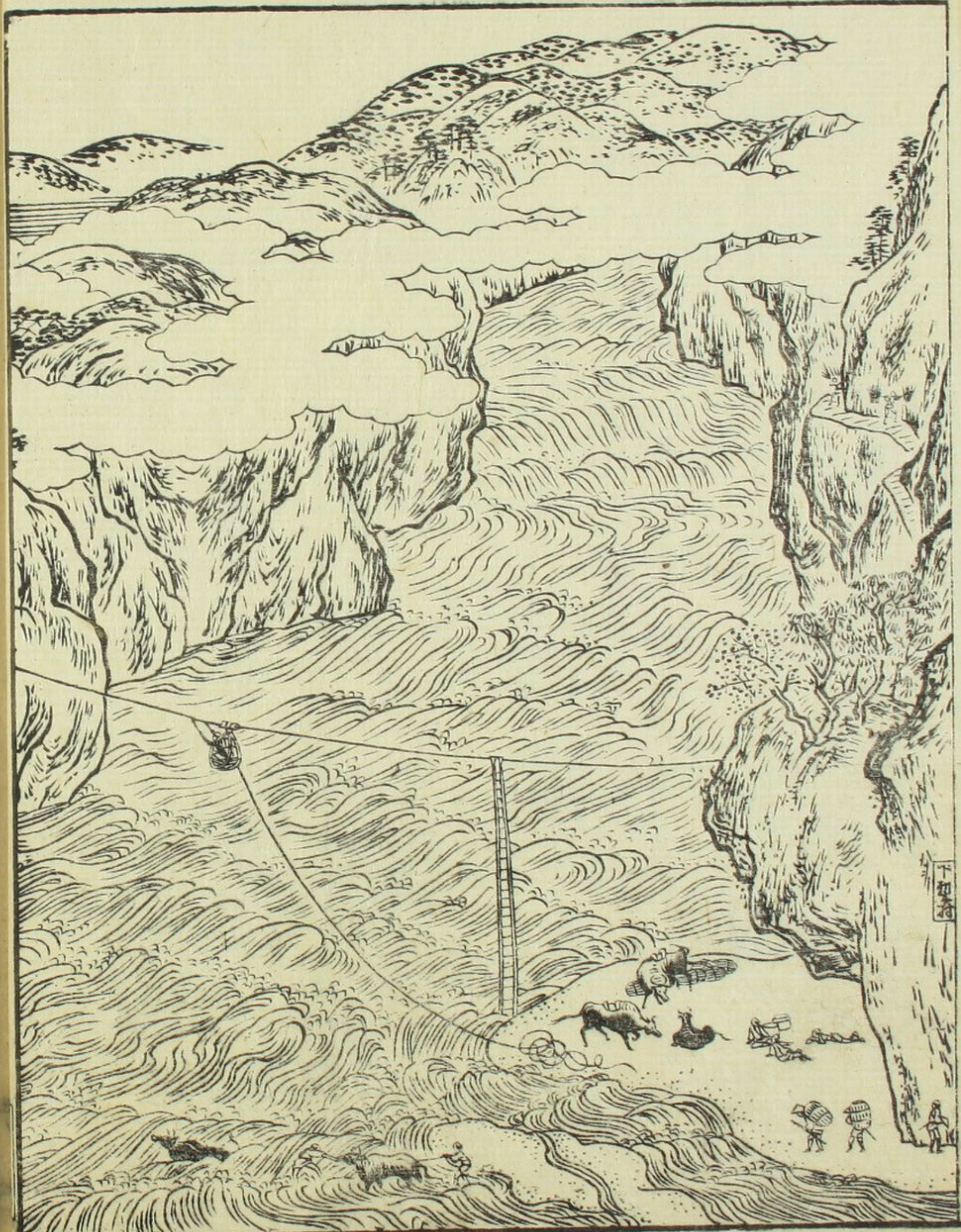
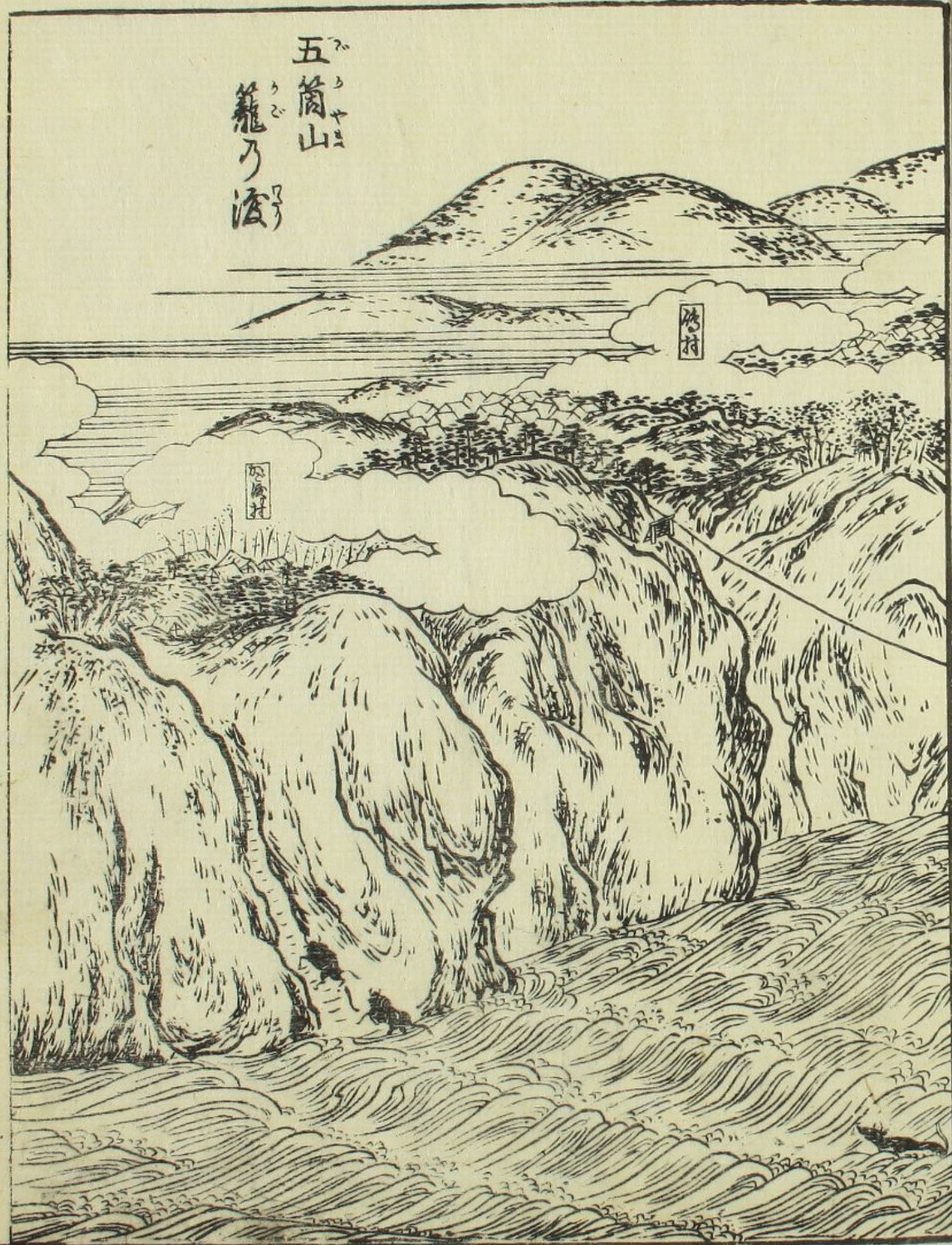
弥松山



人形山



五箇山
籠乃渡



本願寺
用本を
伐出



を渡らんともう入の先け柳を逢ふて逢ふて小大綱たる柳をゆくめき川風
山嵐さした吹流され西よ来たあむびきさうり激な流の糸とのちかか
下く危きり限りはし幸ふしてとらる大綱は糸付て被笠の中へ身
と袖もねむりし柳を離るや唇や糸の糸もよ大綱たつて糸を射
ぶく三に十回二回りて大綱のま中へ張るめり勅指鹿ふも甚し
け射眼くらめき懸階へ踏どる身を忘却は実な天下并一の妙踏雅
蜀の接道本多の柳橋のつへはもさうく人徳の物語りよさう冷
よけられ生けしと人のあのみよあひては悲しうくぬくやまなど
を脊より直ぐけけち柳をどのかり雅なう向ふの岸へ通ふはし都の
人のあふまふれば三葉ふはあはれ柳をこれよりあふまふへ細き大綱
を大綱あけけひたさうたかり登るやもはれは元氣な腕弱くけけ
後と大綱柳枝に忽ち後さまよ四の志中へ戻るやましとやけ川筋
よ藤の流す十一ヶ本をさうへもけ又箇山のまよりる人門幅八十間を余り
大綱もさうくけけあむり流る雅なうり古歌よ
いづつとあえて来つと人依の藤の流るもはばあうり
近き以东の平飯寺内再建の射御用本と飛騨山より代せよとてしよ
巨材悉くは雄津川へ代へ紙中より運送してやとく都の先と
御堂いよやう小道にせしと門下の男女心かと愛しうるとは雄津川の傍り

よきとらふふ

五箇山雄津川より両辺数々の村あり傍る流の山奥うれば女の人と交りつ
さく人物皆美ありて津代の風もかくやみんとさひやする男女ともさ
のをさしと早物とさうあて柳池の制はし婦人の白き袴の長き
と願巻はし帯も白く白き袴と袴ひ下げ白き小物を肩あけけ住
節はひ月入の地國の柳にききあふも心はかくれ下りたうりよさうら
對面もあはれけし里の婦女の衣服とせうさうり其の換衣は云のさうく
ゆるりあはれしてさうり絶倒してあふしけられ籠るおどりさうら籠る
或の年のく登りたる柳の枝に杖をさしおのりさうりさうらは男女お群
鄰用さうり流奇唱ひ得りつ又ぬ歌して躍るさうり流るさ代のさうり
都の方の柳は甚異の躑躅一ツ二ツさうりさうり一に一に
柳のいよとく登るさうりよのせて柳のいよとく登るさうり
いろはのく登るさうりよのせて柳のいよとく登るさうり

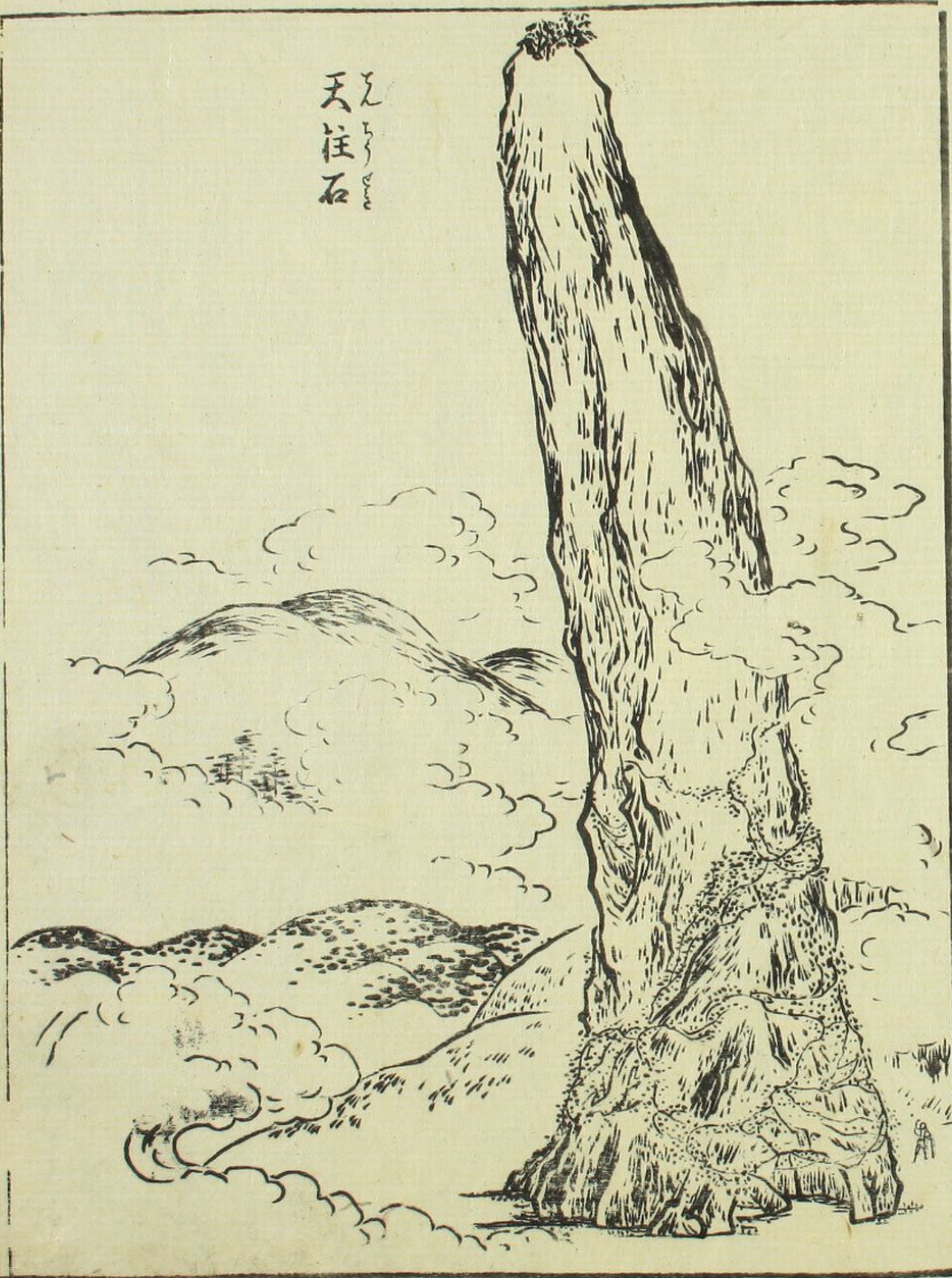
「うそいろさうりてひりりた處さうり月よりさうりくいまさうり
唱奇とさうりくさうりも登るさうり月より柳をさうり
流のさうり南に里に松尾村さうり入り其のなれ天授石とさうり奇異の巖は
あり其のさうり教而大に射ともさうり雲と帯ひ合柳とさうり者稀に絶頂よさ
さうり柳よりさうりくさうりく雲間さうりて竹のさうり方さうりをさうりくは流るさうり



鏡子躍



天柱石



附節も凡雲よつて飛ぶるや其わたりへまのあふるはに像ていふく
樹の名義のわたりてあふるはしけ嵐の根も川流なり其の中よ入りの如
き宛あり其條きり平るなり試みよと根と付て治地はしる者なり
三十間平うて恐はしと根せしう宛の中端階多し若葉嵐のやせ
まごひ秋の末のわきふせしとまのわきふせしとまのわきふせしと
あふりて神の根の虚空よまきまきとてく滋掃ののぬ之

飛龍山超願寺

加賀の守山より倶利伽羅滝を経て龍中石動へ
七里石動よりにはまきる同より

開基の祖師聖人の上只性信上人嘉禎元年創建の旧蹟也○聖人の
御真教の如信上人乃沖化○性信上人自畫の教像を安ん

○今石動の南より小の方入里に飯久保光久寺といふ寺あり西にまきる
ていふが政宗して處宗より依りたる寺院なり

○奈古の海より入るる奈古の渡辺水見といふ所
名古の海の名なりとて干よはしとて田舎に今も鳴る

安波蘭

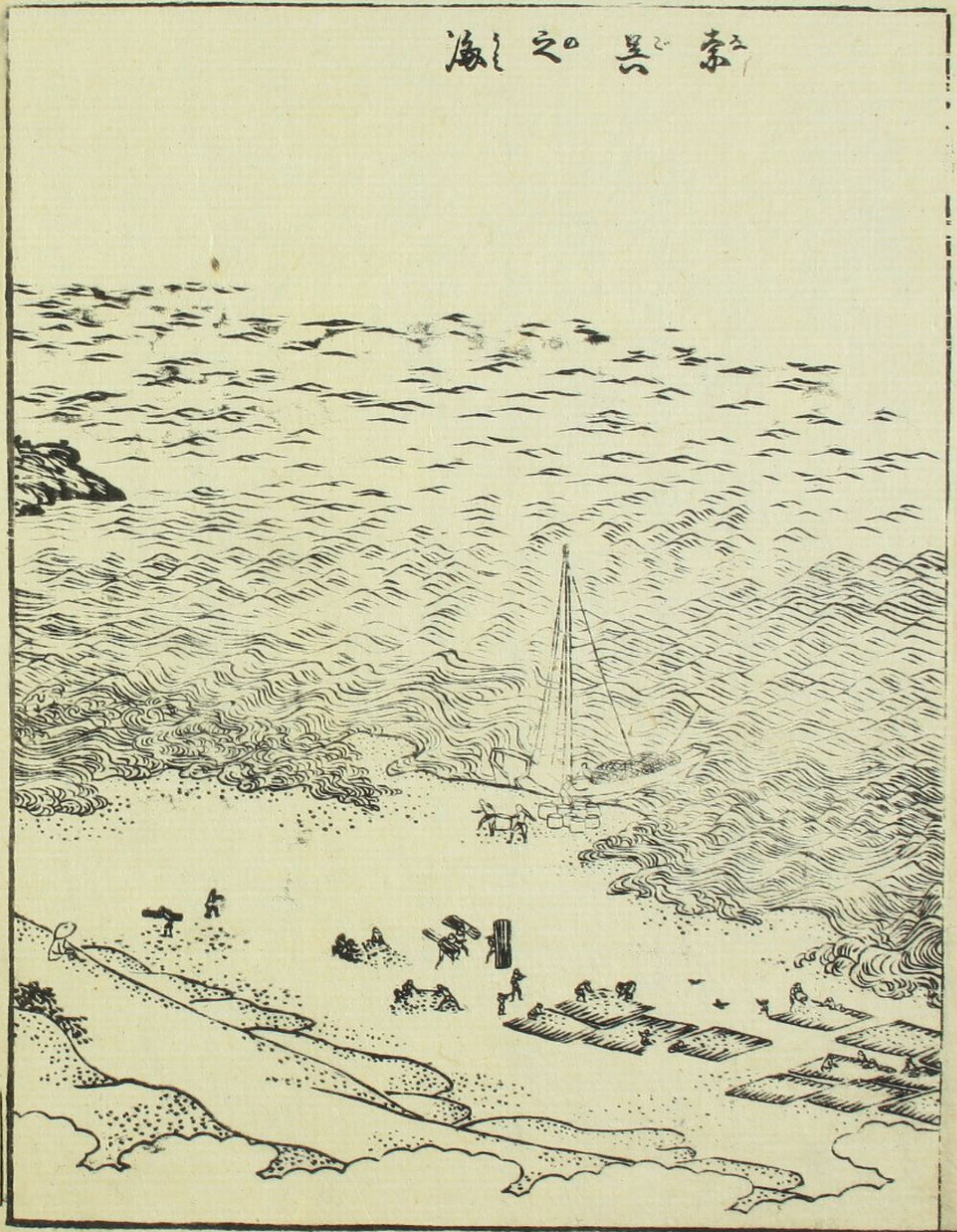
東流 三里 東の方三里安波蘭あり

安波蘭杖谷山瑞泉寺の人は百一代の聖皇後小松院の勅願所也

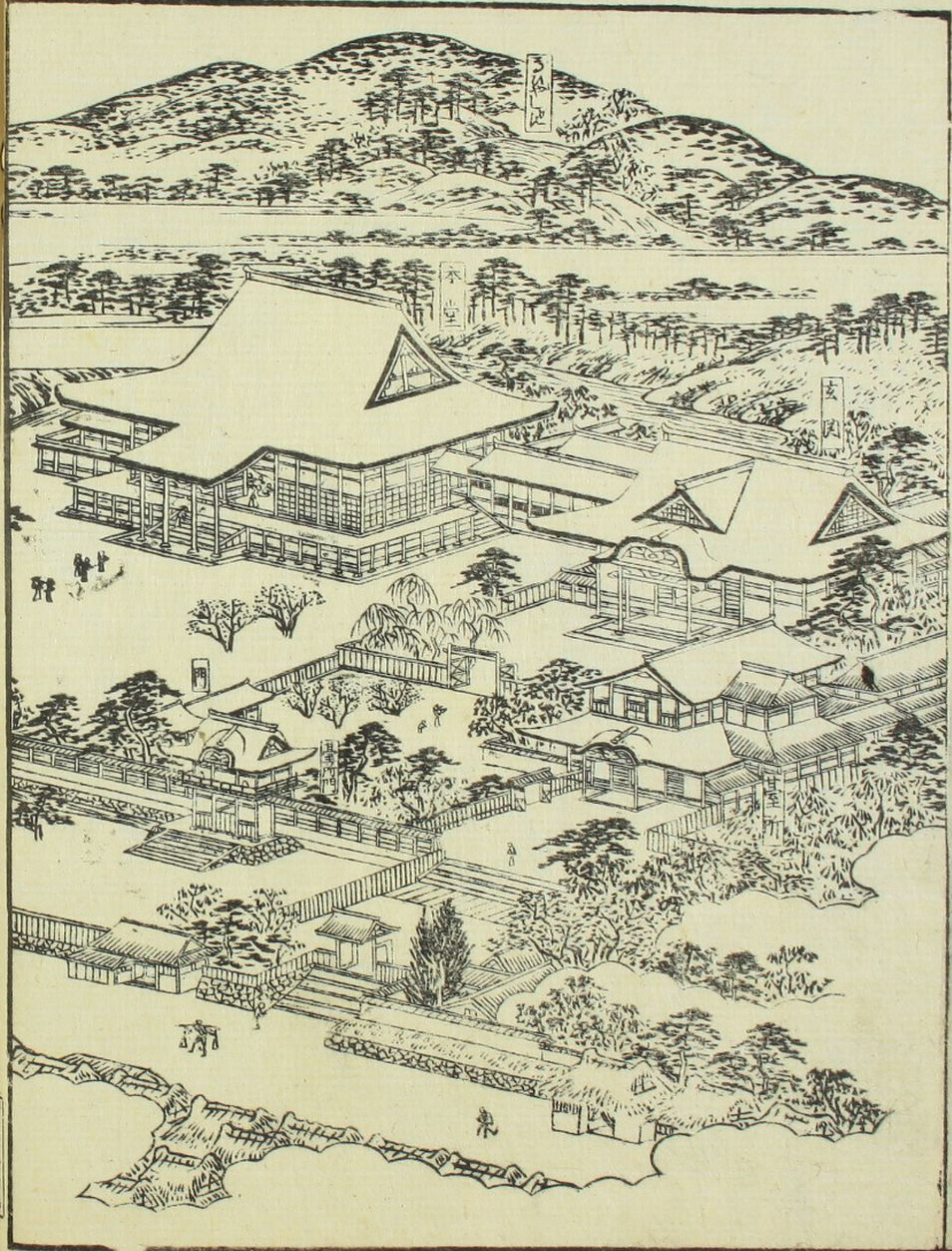
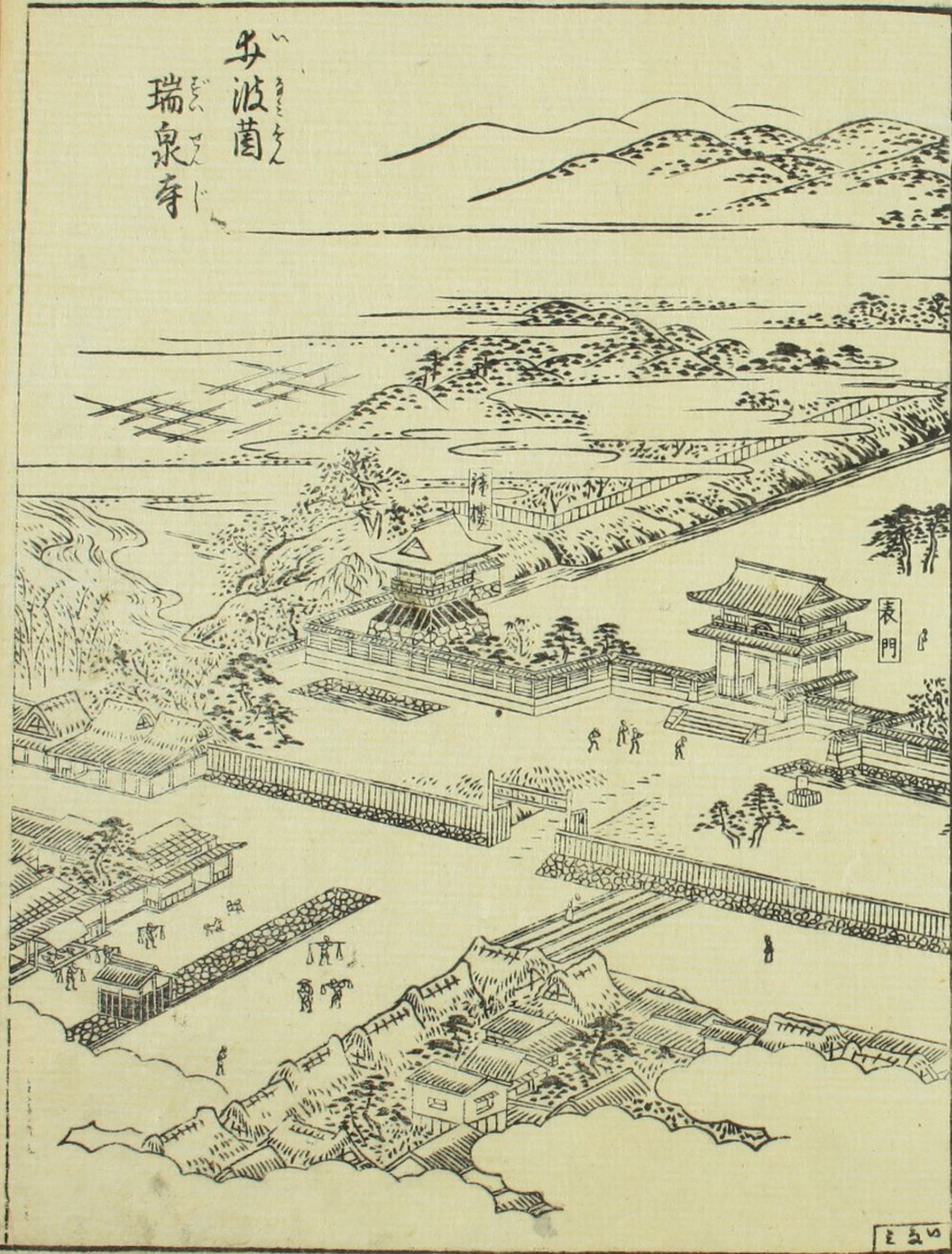
て中教寺并五代乃別處御如上人建立し一人石方り平堂十七間に
面本なる阿弥陀如来と勅教安國のる像と稱し抑綽如上人と博愛
多ありて和漢の文章と達し終ひるがけおしと唐土より雅漢雅解
書と禁廷へなりるる深して朝廷乃官人故て漢の終ひるは是より
帝に方よ命をすし終漢者と需め終ひるは釋門儒林の漢方はと
つと此文を漢得る者の一人とるるる安ん綽如上人ひとたび
け書と披き看て一字す白とと終ひる漢終ひるは是より通じ
が如し帝敬感限りさく綽如上人の勅漢あり今も終ひるは是より
勅教所とあり終ひる佛圖造立乃附は齒以て奇異の雲水涌
出せりといふ瑞泉寺と稱せしといふ此寺城中第一の貴院なりと
代々中教寺門前の沖連校寺務し終ひるは是より靈寶教の終ひる
これと略し



新呉之海



瑞泉寺
波蘭



倭如上人
秘と奉して
書を
讀み
後人



高龍山報恩寺 西流 舟波より西里 戸出村あり

謝徳院報恩寺の祖師聖人のとら性信上人の遺跡に付昔性信上人下総國撰曾根古院と再興してのり弘法よりが歴年

の後高龍山別院と云ふ西流二十に輩乃第一番也本堂九間口の

面 ○靈室の十字名号聖人御真像 ○性信上人御自他の本像

雲龍山勝興寺 西流 舟波より西里 砥並郡古國府あり

尚寺の加城三ヶ國の太守御降依不して國中西流寺院の僧祿

所より寺法宗令とも云山より支配以別て實如上人より小陸

七ヶ國の法政職より云台御書を賜り御本山御代々の御書教

十通 乃軍家國守御寄進狀教十通あり ○本堂二十五間に面

本より阿彌陀佛 北人なり 御寺勢職の西本報寺御門法御連技を

御持より方り ○坊舎八區 柳山岡圃の素中と爲るに

祖聖人誠後國に在せし時日國蒲原郡を居せしに

の御堂を建立し御の御化益あり其後聖人常陸國へ云誠て弘法

よりせ給ふ干時人皇八十に代順徳帝養久三年辛巳年依後の國に

遷幸はしし誠後へ移るあり聖人の坊舎に入御し給ふあり聖

人日國東より瑞里移し此坊舎に在はしされが帝聖人の徳を

ひ給ひ出離生死の要法と示せしと勅命ありせ給ふ聖人帝の善

哉心よりとづき給ふと致して地力本報の正業一向専念の宗意と

念以し御教化まゝくされが帝聖人の信心を得し給ひ御の余

り震動を深て勝貞寺と令せらるる寺号の號を賜りたる順徳帝の

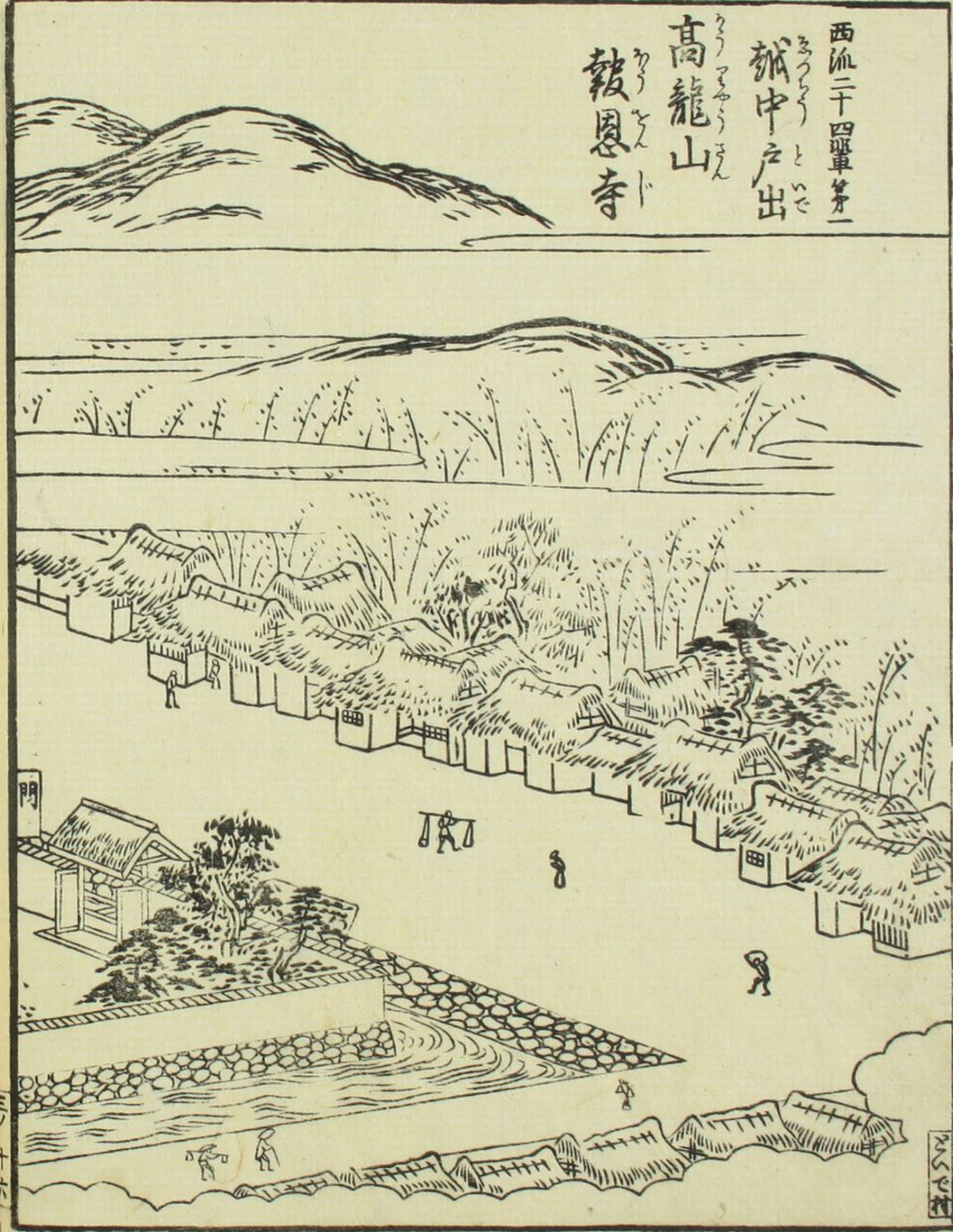
皇子養徳親王御幼雅の時より叡山に登り慈徳和尚を師と

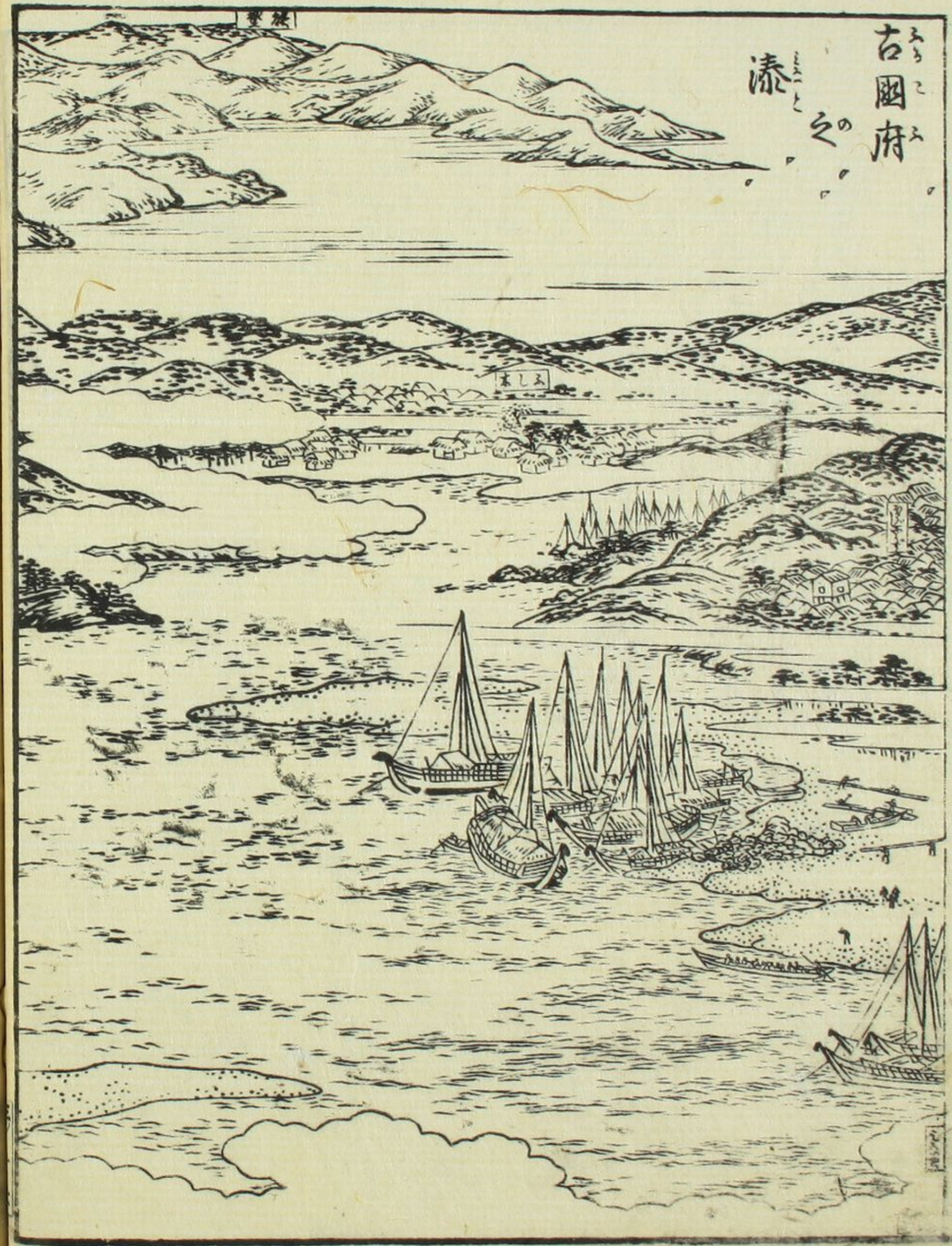
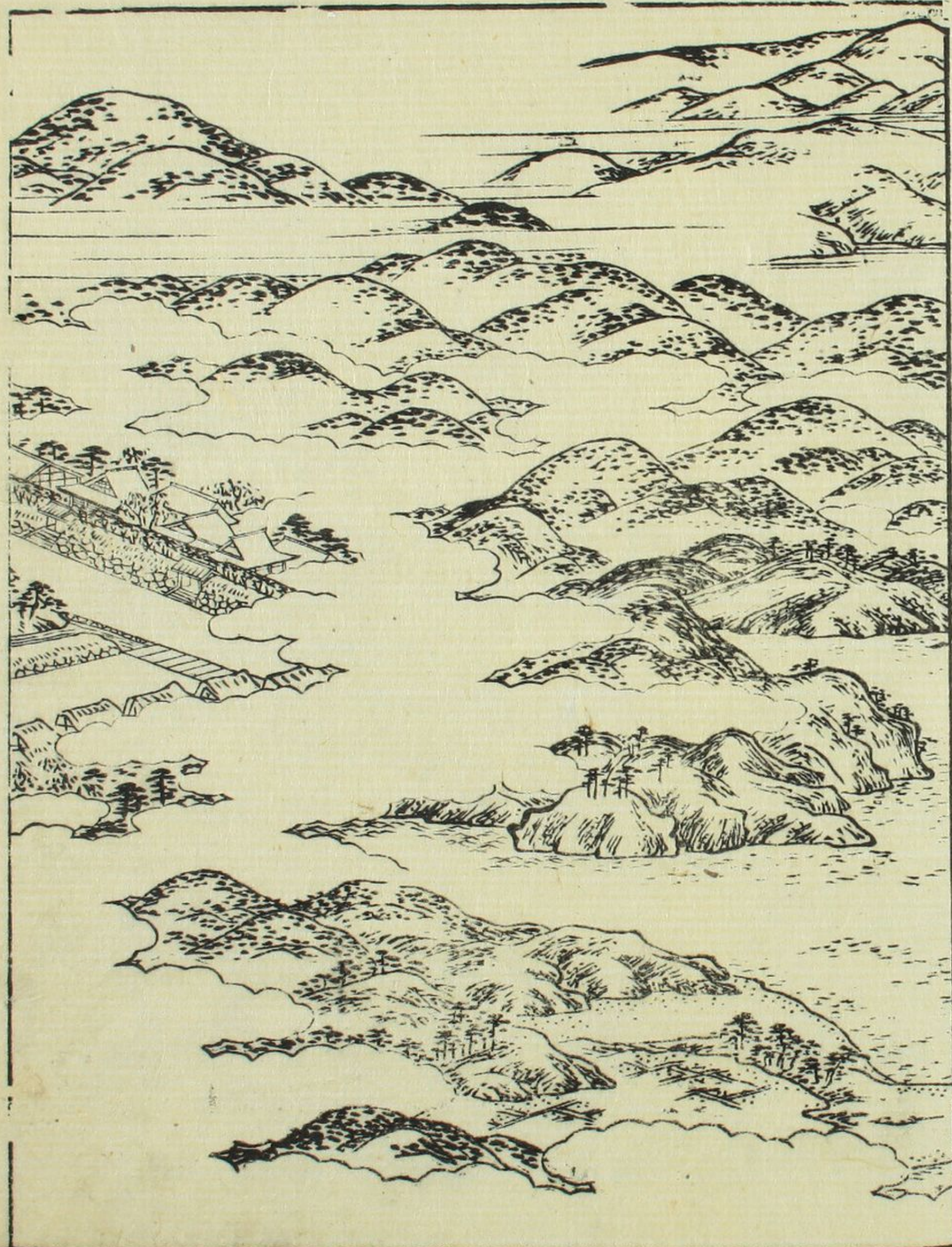
出家し給ひ滅ると号せざる祖聖人の徳を慕ひ國東に御

ありて聖人の面濁し御を御と号し給ふ則聖人より法名と信心と

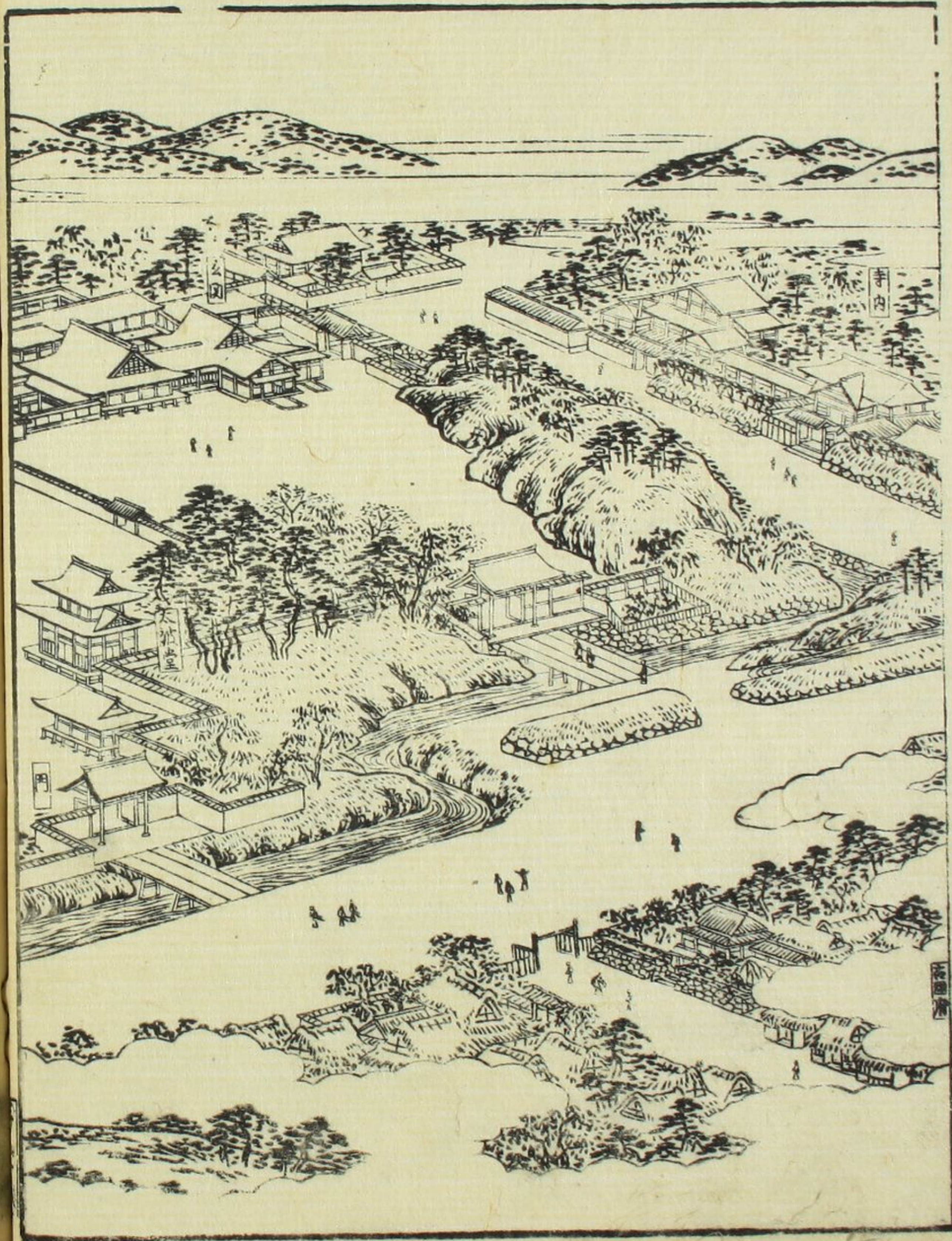
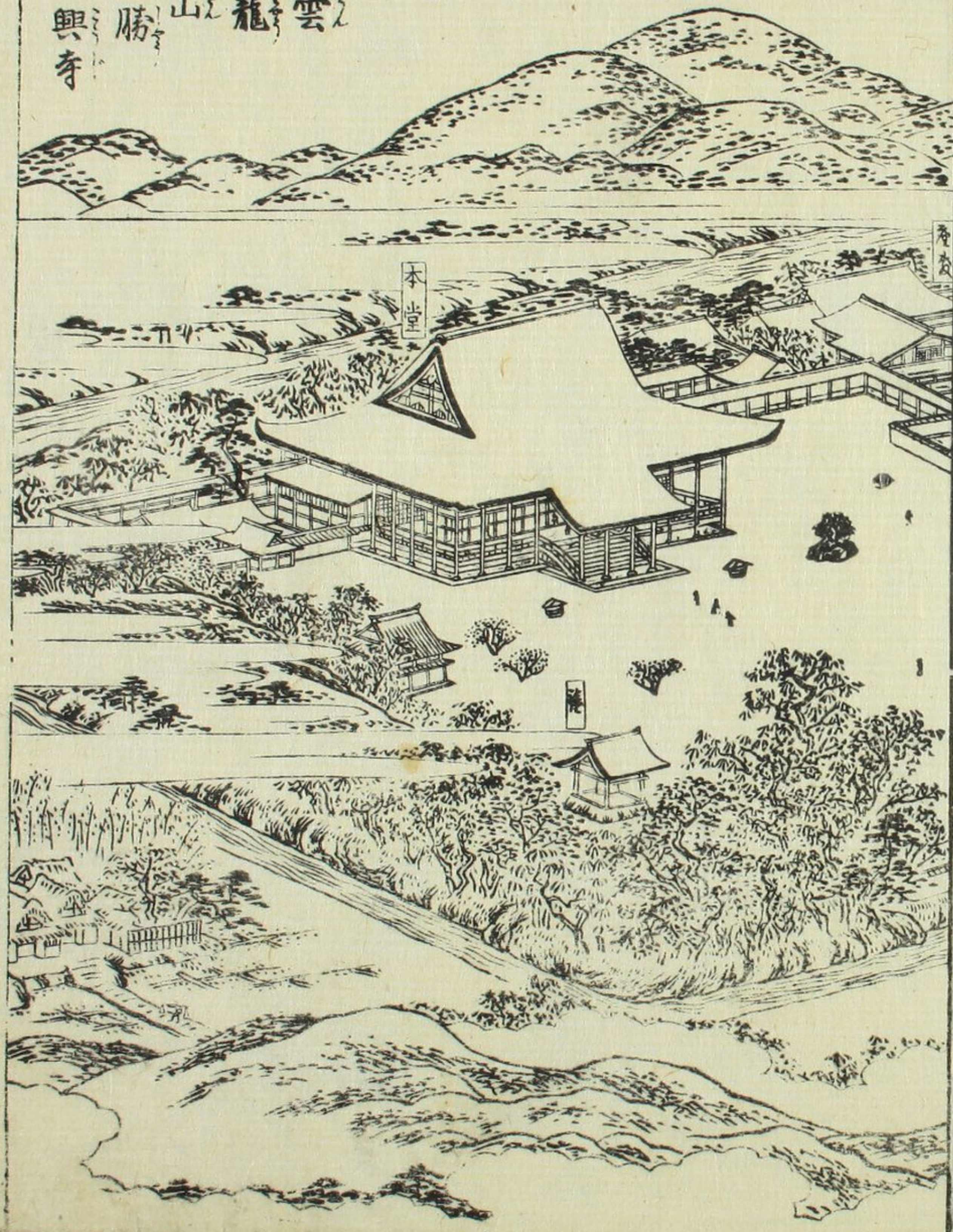


西派二十四單第一
 城中之出
 高龍山
 報恩寺



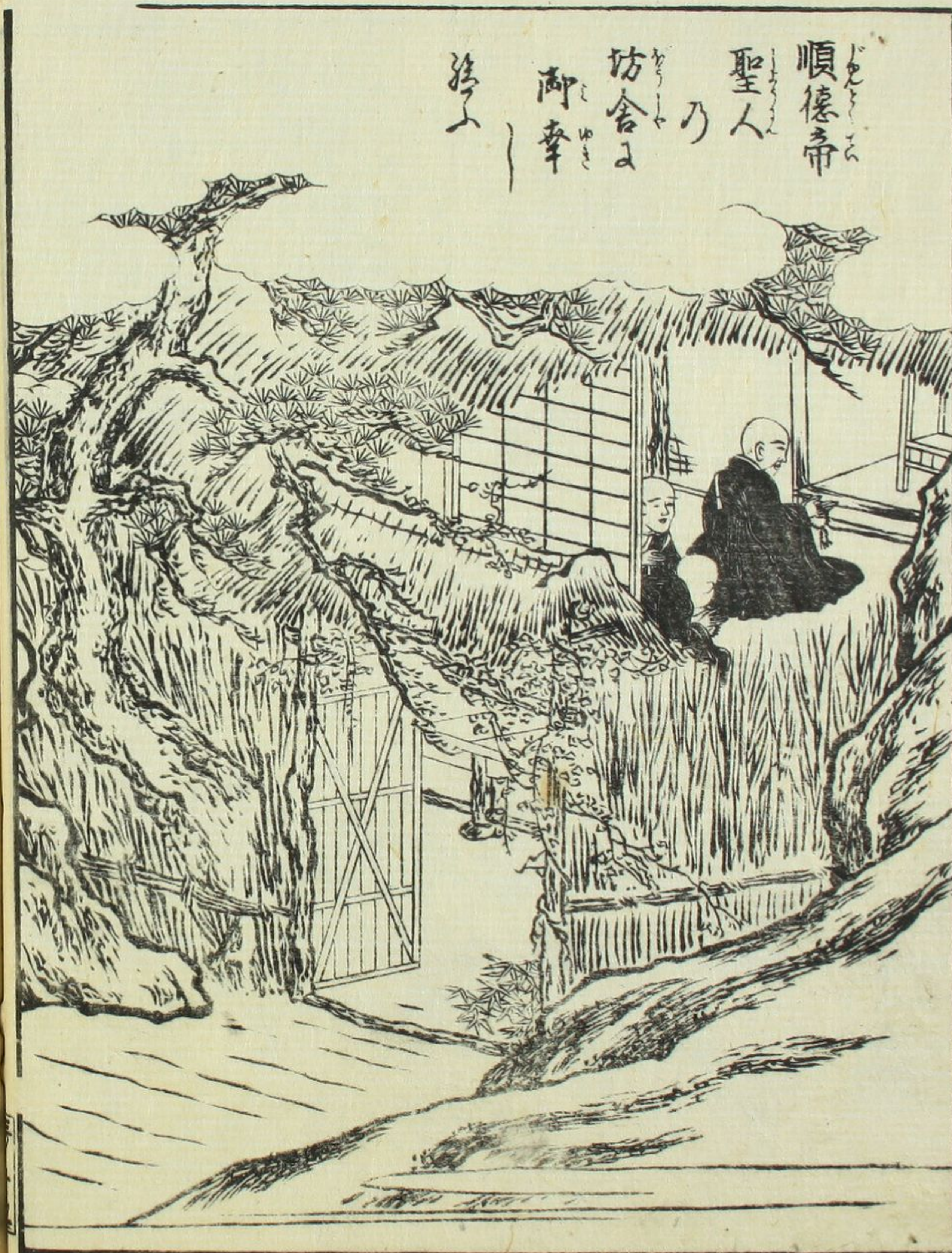


雲龍山 勝興寺





順徳帝
聖人
乃
坊舎
御幸
後



名つけ給へり其後聖人河津治の時信念を命じて官ふは勝真寺
を其坊の父帝勅教の寺をば彼寺に任して小園と化養し給へり
信念かゝる給ひ聖人の命に應じて勝真寺に入て住職し其内は
息信興上へ寺を譲り給ひてより累代お續せし中右兵衛
の弟より退治し及んと給はるるに文明三年の比蓮如上人河津向
乃砌順徳帝勅教の寺をば廢退し及んを悲し給ひ別紙後
の舊地を此地に移して河津再真にせ給へり云々○靈異
教品略々

○嵩山傳記曰祖師聖人一寺を佐渡國に創建し給ひ順徳帝の
勅して寺号と殊勝松願興妙寺と賜りて且勅額となまつり
順徳帝第三の皇子義成親王聖人の河津より信念上へ
号して此靈院と相承し小陸七州の化度を聖人より免許せ

らとれたまふと云

高柳山東弘寺

西流 古國府より十八丁 村水郡牧野村あり

東弘寺は高祖聖人の乃多牙若性上人の開基なり極記の中園の
東弘寺同也○棟香の阿弥陀如来の基菩薩の河津を安
せり○聖人の河真教の河津

鎭定山極性寺

東流 古國府より五里は嵩山の麓あり

本堂なる阿弥陀如来の基菩薩の他塔中三區 柳齒寺開闢
性若人皇六十代延喜帝の朝に宰臣原基經よりあり基經
の三男徳麻呂延喜二年丙午年十七歳にして母信の文と道
高理令剛峯寺に登り弘法の教を學び三密瑜伽の妙法を得て
徳長院と号し延喜十九己卯年出國新川郡館の里に住せり延
長元年二月帝より鎭定山極成寺宗貞院と勅額を賜り加蓋を

高柳山

東私寺



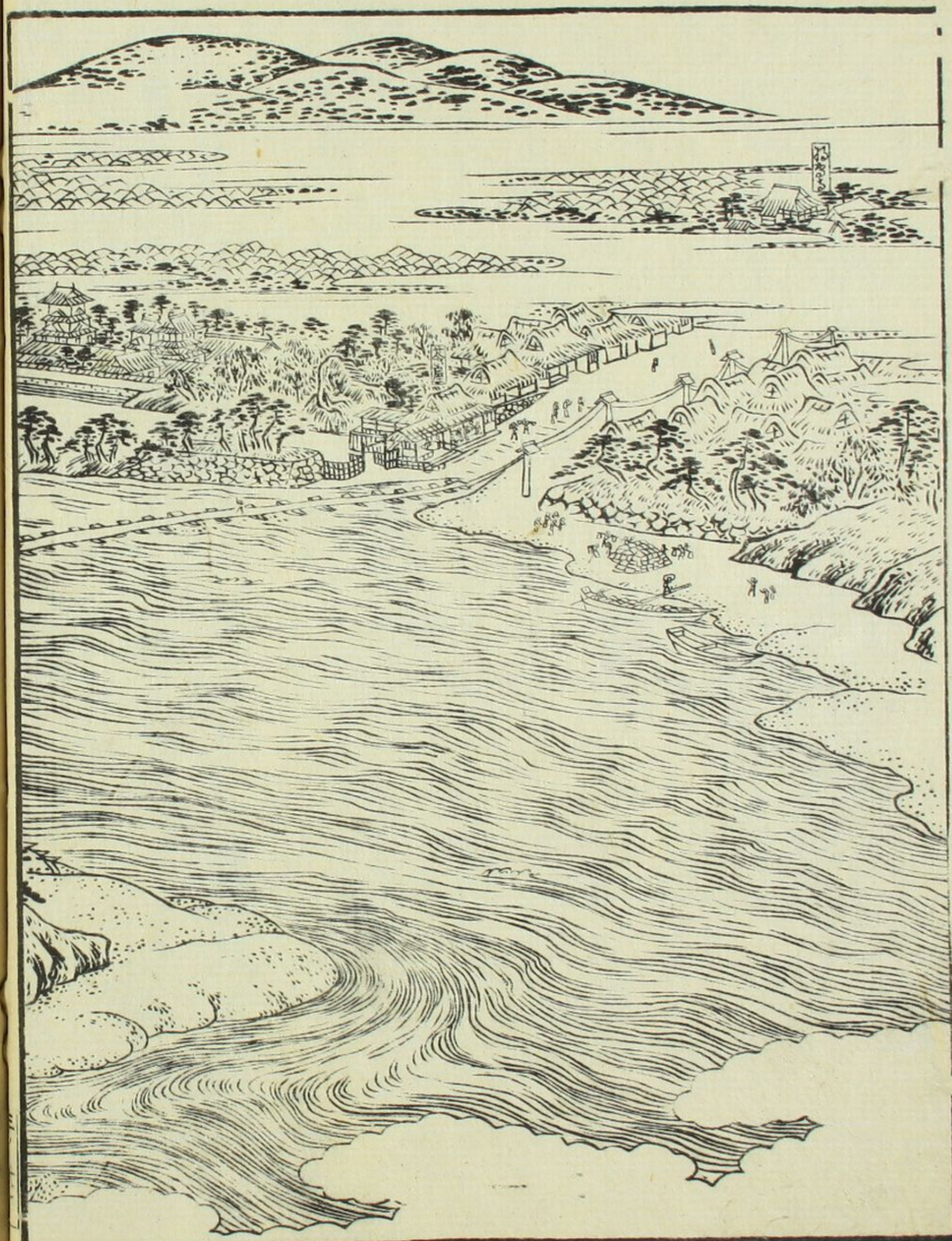
建立以迄より七世の寺務を惠明院とて千時建保元年の以高祖
 聖人誠後彌中所謂彼以して化導在ませしが日彼彼の伽藍と見
 多の二王門の着るる立石に御腰とつけらるる惜く休息し終る
 後(此下向の舟に) 懐中の安正院とて僧門用よりこれをとれが門の丸右
 里(此下向の舟に) 二王の像一白腰とて聖人を拜せらるるに安正院寺なるに
 其まゝ入り入る寺務よかくと告げしは惠明院とて是とて小その
 河又遠くはしこれ又元僧ららざるをわけて即聖人の面指以
 聖人其宗者と同路の惠明院言ふる小詠奇をなして以
 我法に佛と歸の九十九發佛といひに解とてとるに
 聖人は教の意と得る叔の真言云右難解難解の素直とて
 終る惠明院又聖人の宗者と尋ねる小聖人言へて
 我法に朝夕換り見の發ゆるといひに解とてとるに

舟橋
川通

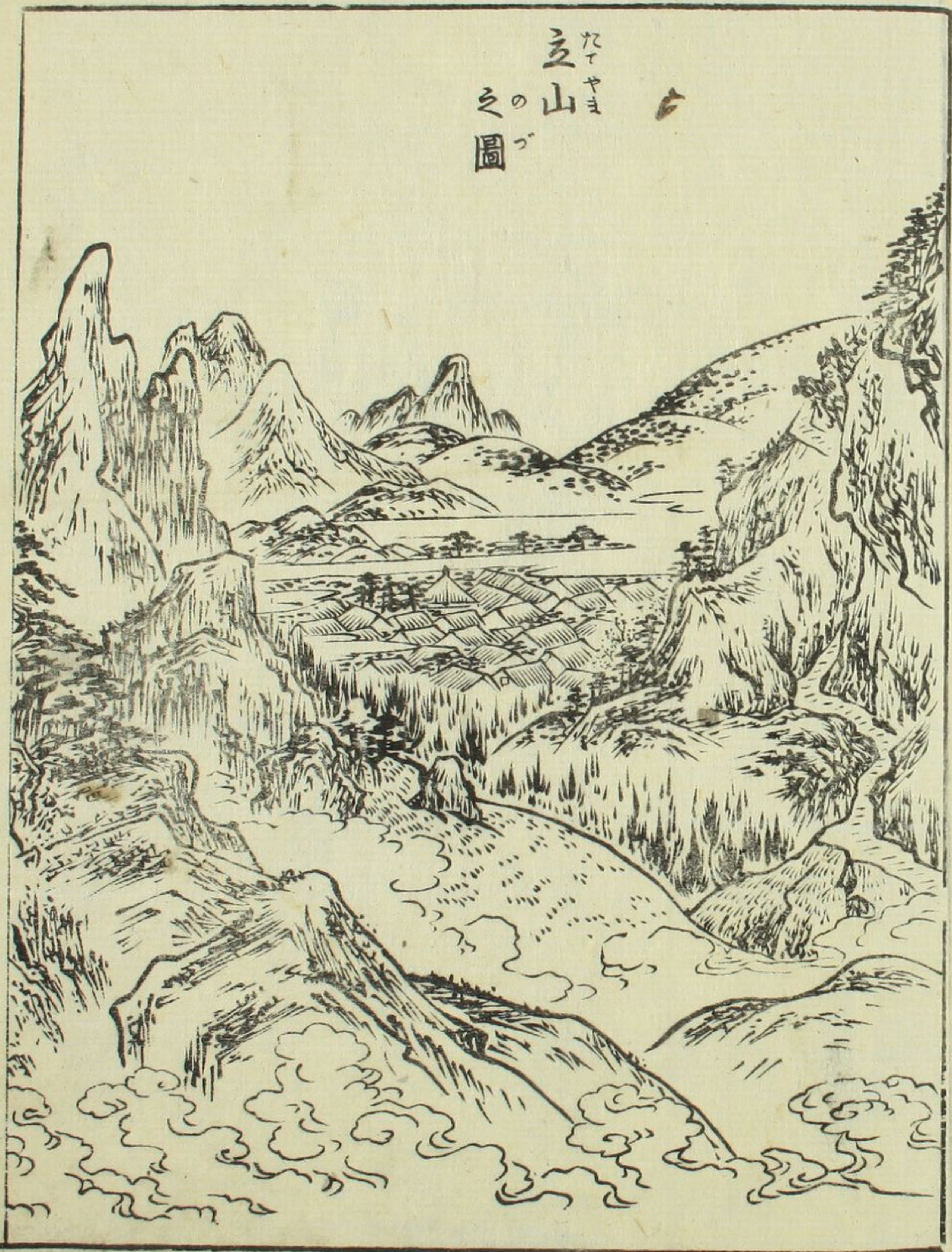


川下

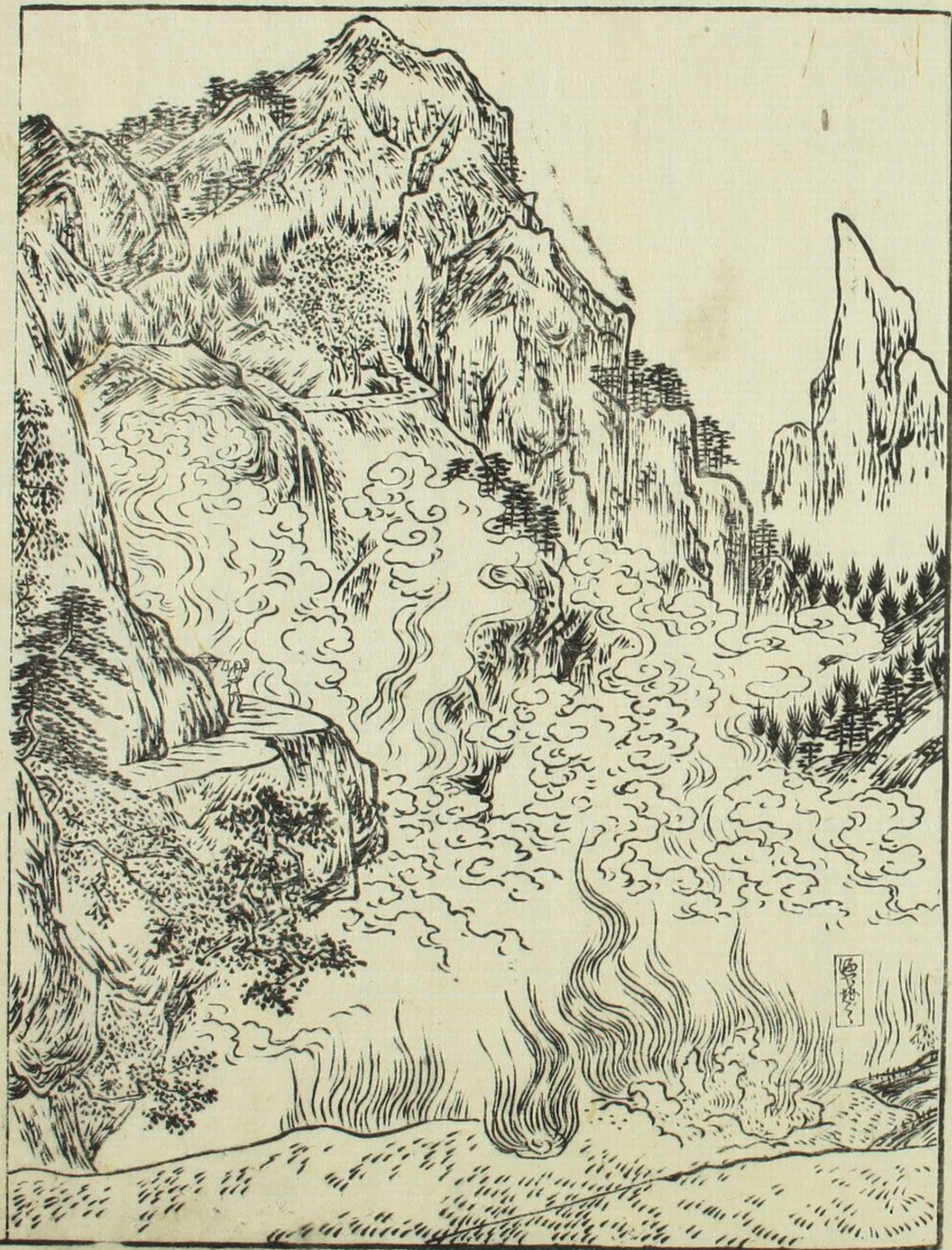
舟橋



立山たてやま
之の圖のづ



とうん返款とうんげんし終ふ爰あゝと抄しりひて惠明院ゑいめいゐんいよく九僧くじゅうそうを次とあり
 寺てらを講こうしなり終夜しゅうや回音くわいおん符ふ撰せんし實まことは他力たからき易やす妙たふの教きょう外がいの末すえ法ぽう
 五濁ごじやくの要法ようぽうありんを徳圓とくゑんせらさしより立正たつちやうに本宗ほんしゅうと改め宗門しゅうもんは
 皈きんし河内かふち子こありぬ聖人せいじん即法名じやくぽうなと教順きょうじゆんと授け終ふぬ聖人せいじん此
 寺てらと出立しゅつだつし河内かふち教順きょうじゆん坊ぼうも河内かふち宮崎みやざきとふふに宿しゆくし終しゆうり爰あゝり終しゆう
 成じやう寺てら累代るいだいの門もん後ご三人さんじんけりるを河内かふち法ぽう孫そん孫そんの宮崎みやざきより河内かふち教化きょうか
 と徳圓とくゑんして河内かふち子こありぬ聖人せいじん此三人さんじんより法名ぽうな孫そん孫そんなりりる
みへ稗烟村ひやくえんむらの定相じやうさう本孫今の名室田村むろだむらの定念じやうねん本孫今の名
七郎を名とし室田村むろだむらの定念じやうねん本孫今の名念を名とし
五郎を名とし室田村むろだむらの定念じやうねん本孫今の名
 是こゝより出立しゅつだつし法名ぽうなと名なとして子孫しよんそん相續さうじゆくし今いまは極楽ごくらく寺てらの門もん後ご
 河内かふち教順きょうじゆん坊ぼうの聖人せいじんを供奉くわんぷんし祇後ぎご園府ゑんぷより聖人せいじん八月はつげつ中ちゆう坊ぼうは降くだ
 寺てら号ごうと極性ごくじやう寺てらと改め其後そのちゆう弘世くわんじの御館ごくわんの里さとの満堂まんたう兵へい乱らんの爰あゝり抄しり
 所ところより移うつ極性ごくじやう寺てらと人ひとも其寺そのてら系けいと失うしなりりて第十じゅうじ六世ろくせいの極性ごくじやう寺てら良らう惠ゑ乃の



附實元元年より富山愛宕町へ移住して祖師の法灯と傳へられたる
ものなり○富山第八世信空寺勢の附實元十七年の兵火の
瀧堂とくく焼亡し靈宝焼失し唯かまるとちの像の
相傳として空の中より現れしを以て信空寺の
たより重恭敬し奉れしより以来靈宝移りたる地
より信空寺の像あり○靈宝は聖徳太子の像なり
十字名号 聖人の一幅九外六字名号 法相上人
落の所也 附寺 一幡九外六字名号 附寺
紙中三方より高祖聖人の直丈三ヶ寺より不僧 敬海寺
持専寺 換性寺 これ等之とぞ

梅澤山持専寺 西流 日所寺町より

高祖聖人直牙の遺跡に本堂八間四方坊舎二ヶ寺

新舟山願海寺 日所八番町より

聖人の直牙敬海坊善性の齋趾に本堂九間四面僧坊二ヶ寺

鐘定山換成寺 東流 日所材木町より

換性寺日系の寺也坊舎二ヶ寺○聖人館の里にて沖腰と掛鉢ひ
たり石の今昔寺より聖人所居を付せ給ふは御指の痕なり
今今より諸人これを拜して奇異の思ひとほいよく聖人と
為敬しむる始り換性寺と号けしが本山乃命より御指の
寺号は復して換成寺と号けり○宝物所真系阿弥院の画像と
安堂氏

○掛通川の源は山にあり其源をく雁陣圍より流れて止り
流下をめぐり山海に入り川を流る水多し流るべく急なれば
流けて往來し難し此の製紙の製法は流るる水に九折十折の
よてつるき東西の兩岸に製紙の製法を建て紙を流し
紙一枚を流しそより製紙の製法を流るる水に九折十折の
流るる水に九折十折の製法を流るる水に九折十折の製法を

くろべ川の
黒都川



伊予の橋



其復の切不にりて後とりしけ長切も淑まぐも自中とせり山傍秘七十六段と云らるるべきなり

○津通川のやうりよりなる小立ふとあり新郷八里新川郡信法の園隈ふありけ山嶽の嶺中第一の天志山と云きり十三里余天志山と云き三年教真上人示現と云ありてしめてけ山と開き権現の社と云きせりとぞけ山の顔佛神と傳人遺よれは座像の佛と云きり其膝を押しき石を一の嶺と云はれ又ゆる石と二の嶺と云へ肩より石を三の嶺と云はれ一の嶺頂をみの嶺と云り吾居難切不しと云きり又容易くは嶺中市の石と云らるるありふ小懸大懸と云はれ難不あり是の登るをたるるりりき大山嶽の山より嶺と銘づけそとてとてとてとてのりり其麓にさるるも登れどは狭いなり一三条小懸嶺と云へる名工の地へとぞ中又大なる湖水あり又温泉多く涌出る泉氣烟の下く立登る之をと傳ふは山の地獄と云り

○富山より新川へある小川流しり川赤安川名教寺川滑川雨つ川名滑川被ま砥石滑門が里人よ松明を突ひ後と銘し之より人の知らぬみりれが毒くくまらば

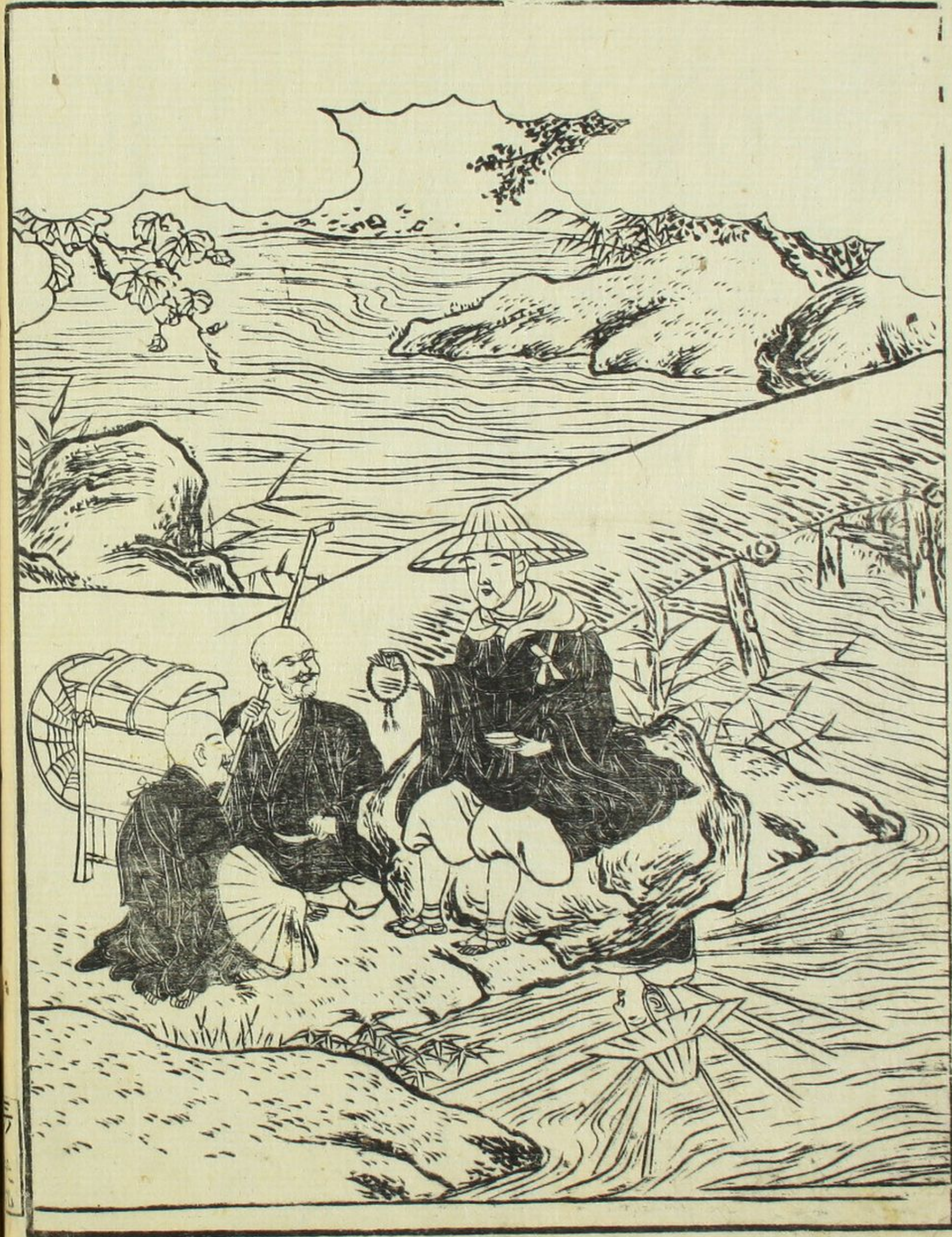
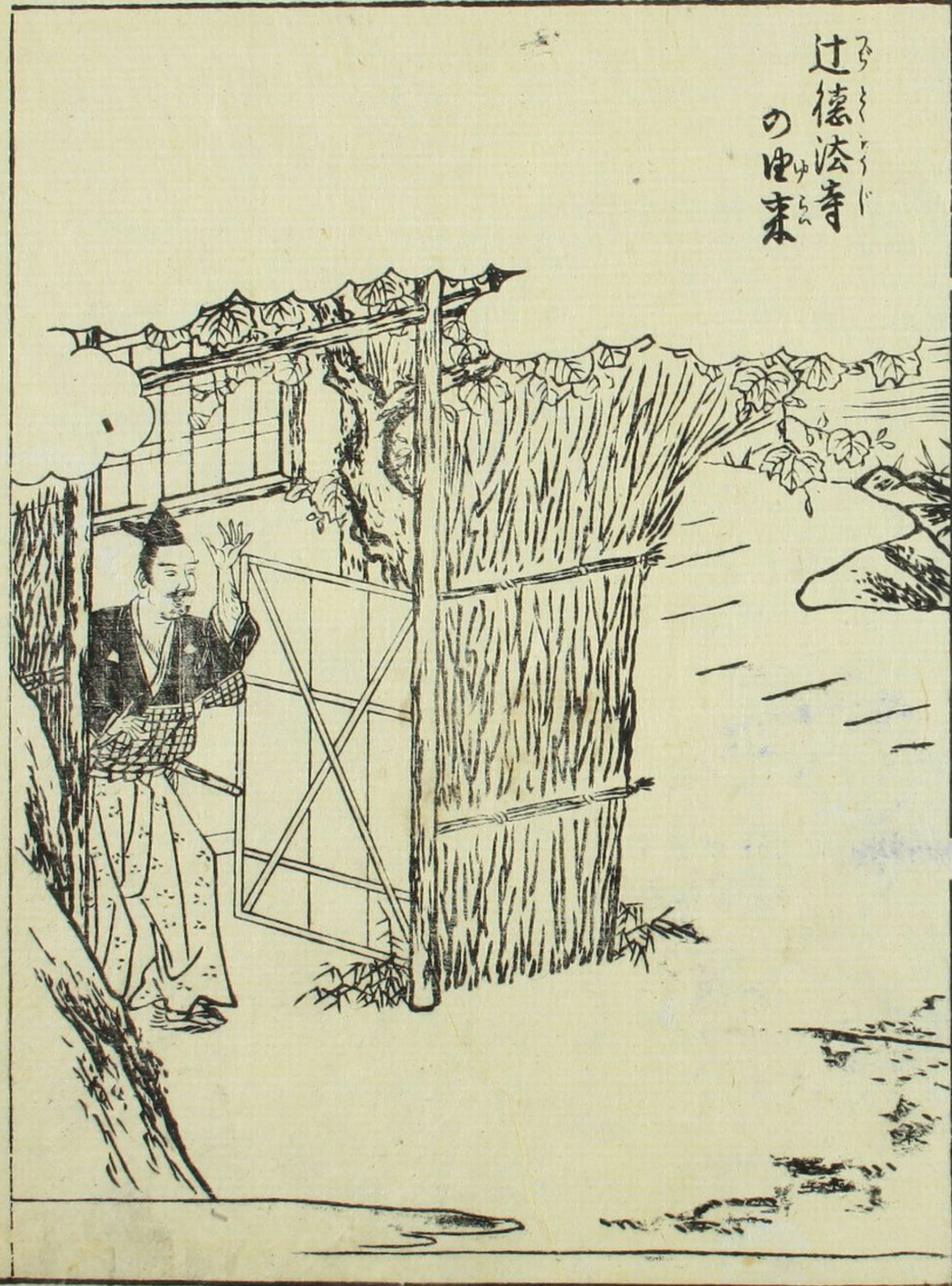
○奥津と三日市乃る小湊後田村と云ふあり安ふ勝後寺と云きありと云はれは戸籍恩恵の別是之と下間法眼蓮宗が蓮後と云もなり

過徳法寺

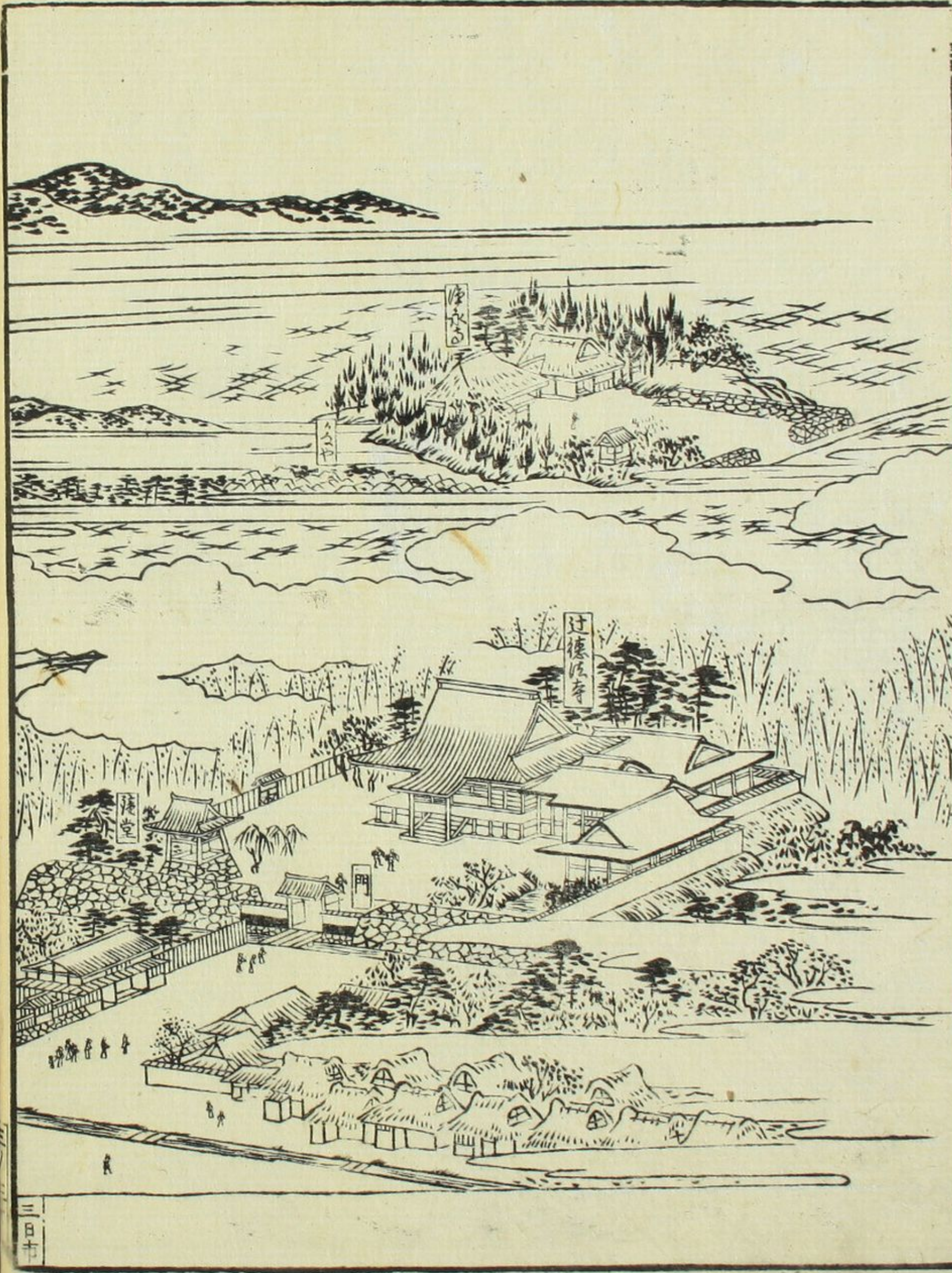
○黒部川抄いしき大河なりてに十八段ありと云りともつらあやうと三日市の間と云はれあり

本堂八間に面かまほ 過徳法寺と云ふは往昔高祖聖人きんご 滅後めつご はままたし耐たえ 建保元年けんほ元年 所ところ 又また 姓なま 五ご して南化道寺なんけだうじ といふせはふ武耐ぶたえ け三日市と通とほ りけるに津腰つこし をうけらるは体たい ひゆるゆる 又武耐ぶたえ は元遷げんせん 其その けは源九げんく 滑門かまど 何某なにがし と云る者もの ありるが交婦まゆめ と云ふ交ま 出で て聖人せいじん の津つ 寄よ 聴き を見み たり小聖人の津つ 教け 傍はた かり流水りゅうすい 又また 写うつ り光明くわうめい かく中ちゆう とくやきとれは源九滑門主婦しゆめ 奇異きい のと云ひとほし是こゝ 心こゝろ 如來にょらい の化現けげん ならんと云ふ信心しんじん と後あと けりが聖人の經きやう 回わい 屋え 又また 入いれ らせり是こゝ 秘ひ と云ふありて押おし けり小是こゝ と云はて其その まま主婦しゆめ 經きやう 回わい 屋え 又また 素す り聖人せいじん の偈ぎ ありたり源九げんく 津つ 教け 化け 又また 終はつ り隆たか 茲こゝ 偈ぎ 仰うやう して重おも し奉ほう る即聖人すなはちせいじん 記念きねん かりとて十字じゆうじ の名号なごう と書か せられん

徳法寺
の
ゆま

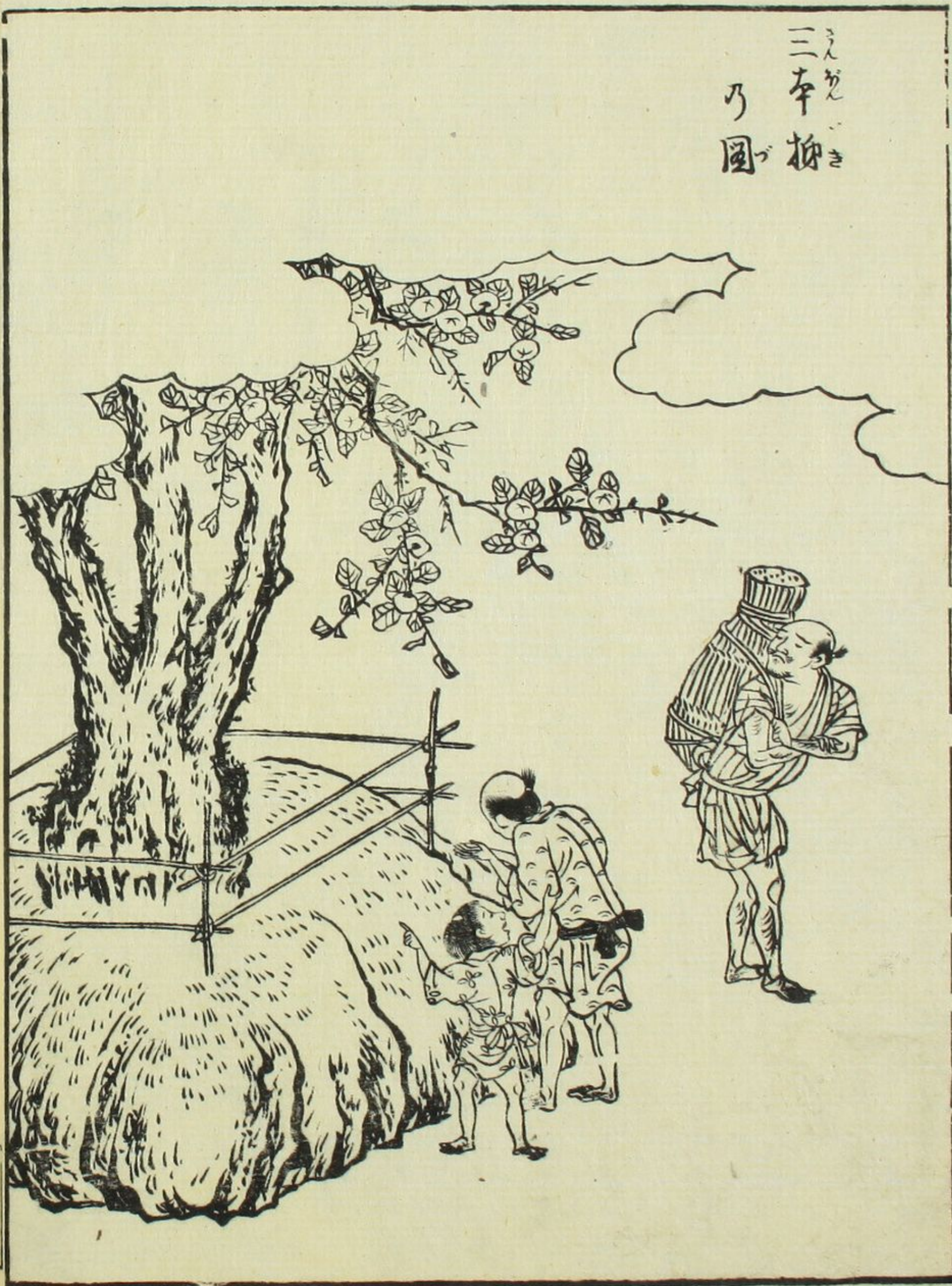


徳法寺
過



三日市

三本柳
の圖



此の石を世に傳へての名号といふ源九郎門が子孫安んじと建
 立して本山より寺号と免し終に徳法寺即此の所記念乃
 名号遺寺に安んじたり彼所腰掛石も門内より移りたり

三本柿

日所あり

此の地は経田屋といふ者ありたり高祖聖人此處に入らせ
 終に母をゆしよらまゝなるふま何とくるも半柿と捧げたて
 ましは聖人ニツニツこれを石とて其處と燬の中よとて
 終にわが彼燬中を焼くう実と名出り屋に埋む折まつて
 實も今我ともむるもの法末世に整んるべし焼く柿の根と
 生し芽と出ればと誓ひ終に果し此柿根芽と生
 し枝葉茂なり

此柿の正根を用ひて三本柿といふ
 今日彼地は繁茂

此の地は聖人所教化の法流末代孫傳に整んたり実も高

祖の令言刻府を合せうろぐとし、其哉永不成佛の凡夫の燒
く果實のどくもれども佛智不思議の誓約と信トせば
附に忽光明攝取り淨利益を蒙り現生に心定の聚ふべし
後、他力不思淨の淨利益仰ぐべし信とべし

淨永寺 東流 三日市より十五丁金屋あり

當寺の杖古平家の侍母及別當実盛の孫永母源茂と名者
高祖乃淨化蓋と歎其謂と傳へる舊跡これに母及別當
実盛と二人の子有り兄と母及みといひ弟を母及とて兄
弟とも平氏内大臣小松重盛より家長より小松殿遊去り後
出家して江州坂本西教寺に住し其子永母源茂の當國令
登り居住せしが其次に此所街道筋より多きは高祖聖人
後、河下向の附黒邊川にあはてて三日過宿はし終ひる

か日、源茂夫婦と對して是くも專修念佛の淨教化ゆせられた
まひまは夫婦満くも隆茲渴仰して信心獲得はしり多きは
聖人淨教ひのりまり十字名号と書せらるるに、終り別して妻
女がため、第三十又の女人成佛の願意と稱んごらるるに、たすひ
て紺紙念流の名号と書て二十五願と表して三十又願の光明と
畫てこれを与人終り其子孫一寺と營み淨永寺と号んごらるる
右二箇の号号今も傳ふる

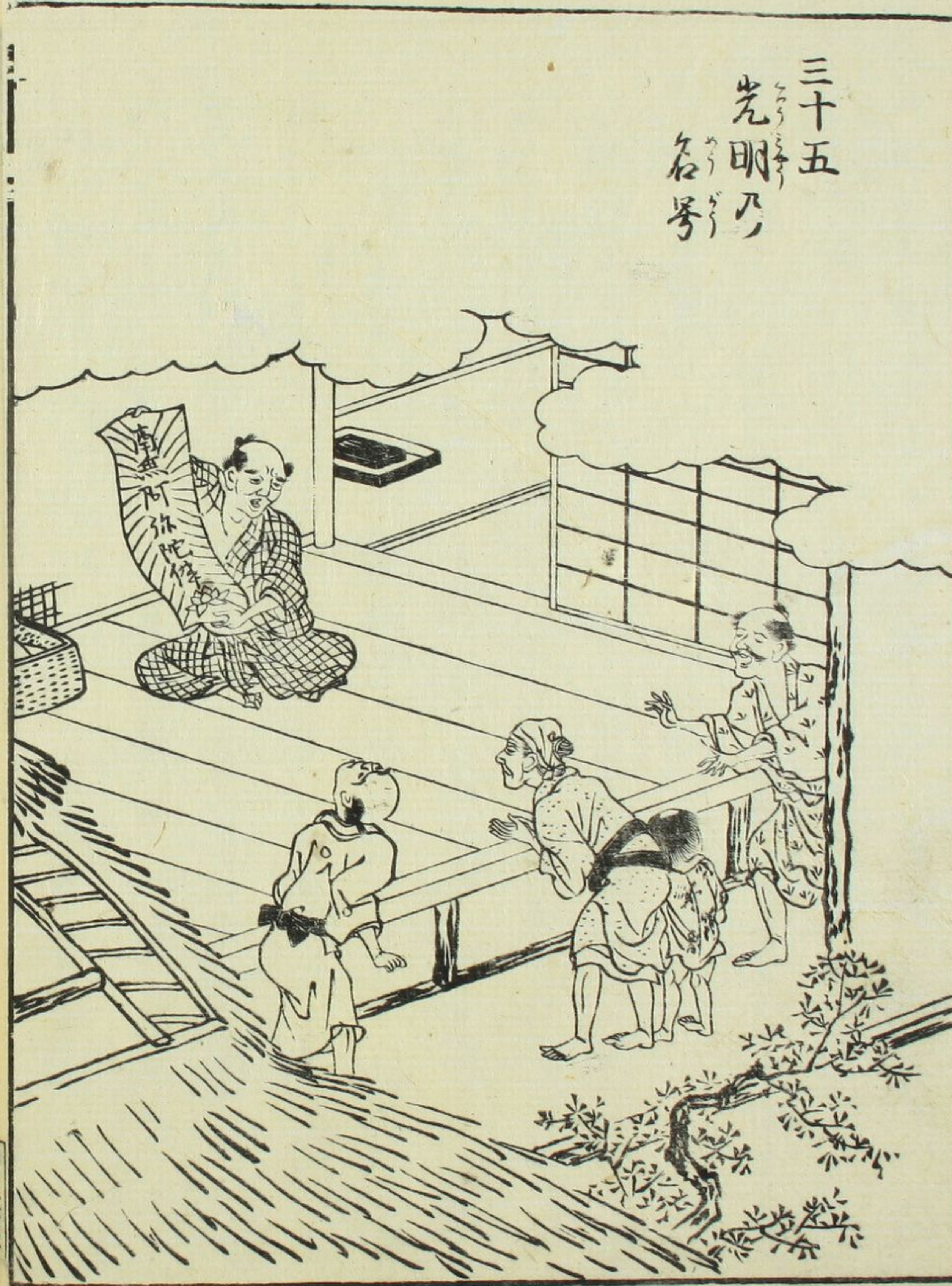
○月郡若井村託了寺に曇鸞大師高祖聖人對座の淨
教あり聖人稱回して淨深等云
日郡舟見村雲龍寺に竹布墨等十字の名号あり願
ふ六神乃化佛に高祖の淨真等ととらる

誠後國 誠中國三日市より横山の宿後の名に刻りてに里子の外後、境川あり誠中

市振いちぶり
の
湍たぎり



三十五
光明くわうめい
の
名号なごう





城後の園塚あり是より城後り市振外浪を味まて渡辺巴里りあ
天下要双の難不にて親まを以てまゝに渡り入り大なりなりとては遠り
より十石の方の山嶽をこもるく傳へ連り彼佛岳を衆も懐き岩石の
屏風をまゝつて一人力をこめて居るに於ては波の浪は波打際の色を
道と彼還とんたの遠く浪波の晴見へく果し去れぬ蒼海に巨浪
逐浪回なくあやせく見るとり瓦と矢の魂と消はけり絶ゆる岩根
よ大さかり危ありて或は又七回入の八九回入て折返しまた危りい
つしあり是と彼来の猿人彼大浪の引とれん合せ急まきて其危の中へ
狂込ぬとばとや法よりあまるとる巨浪巖壁をえおる小波瀬つととと
はしく立のかりきりぬとるもの浪よふまゝく怒大洋の藤屑の
きりけぬ親も子と見え入りぬりきり親と尋る小浪さきとてま
親をけり子まゝにと名付たり昔池大蛇言とくやせし人佐後の橋へ
遷の時は不きて美雪の村より大浪のふみ失ひ給ひ親もけり子ま
の名まゝにまゝもつりいづこ園第一の難ありけり凡つらき目よ
あて彼還と絶えく遠く遠くあつて是山山の絶頂と通りは是れ
お小吹流されていづるの台間を踏む入る命と失ふまゝとてく山
懐も秋村とふ人里にけりけり浪打際細き岩壁一踏きの難
なるけり踏馬とて通るが故にとて釣うりと名つけたり高祖聖人す

らへの所時は浪して荒浪よ折まりと給ひ既し御命を危りしと今と
大勢忽ちとして波の上と現れ出逢巻大橋と通つて聖人まゝく通
せ給ひとつひ傳人傳る瀬よ聖人の弥陀の化身はしませりる考
あつるふちんとまゝくまありがたうりき

龍山大雲寺

本尊阿彌陀如來

通寺の付若と洛山の林蔭外浪村の庄

節此家又宿まはしとくふる右近兼て聖人の高德と史及び
又今日為教と拜し奉る小何となくまじ殊勝と抄はしきり多
むる重恭敬しきり殊味の飯食を個人丁寧と郷食應をう聖
人右近夫婦と對して弥陀報世の大慈悲の末代名鷹の九まじ
て安樂園又逢へ給へんがぬの誓言願うまははき一心を彼佛願
又敬命して不可思議の名号と稱し西方より姓清せよといひ念
ふろ又御教化はしとく凡が右近夫婦潤と嗽んで教法しきり

金龍
波濤
去々
聖人乃
雅と



を切て河舟子と号しり聖人河喜乃命り又法名瓜宗雲となり
 河舟と号しり十字名号と書り人孫是より六代の子孫花傳と
 号り若あり文明に年穢若若清一語で蓮如上人又面僧と遊げを
 高祖聖人河自名号乃河端と物語しり是は即蓮師の河
 舟子と号し孫の法名瓜宗雲と揚り画像の河舟子六字の名号
 を授けし孫の寺号を大雲寺と号りたり

○外浪と云くき海と名瓜川の沢の間は瓜川と号り大河あり急流あり
 舟りて加て舟渡り大舟の難なり

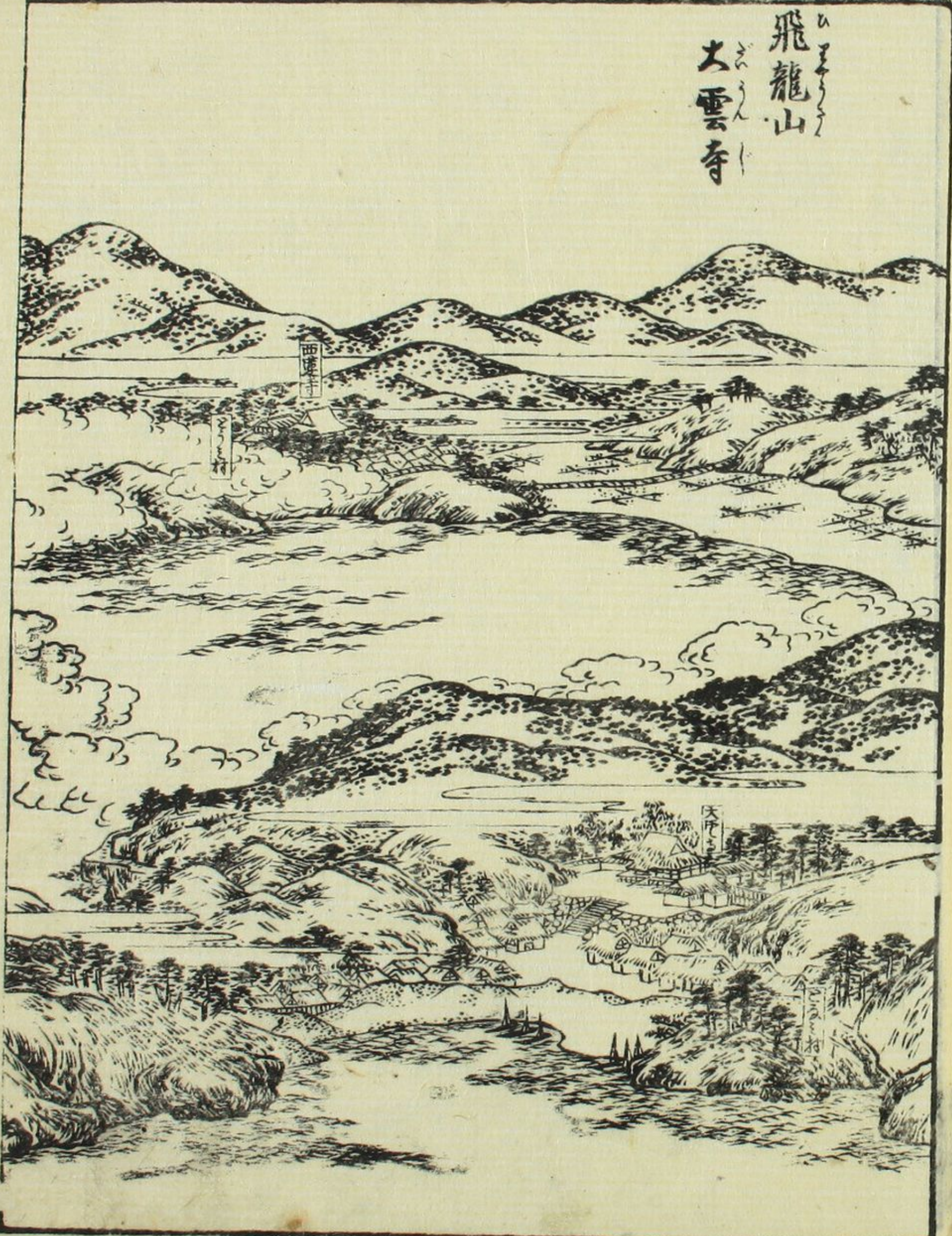
鬼谷山西性寺

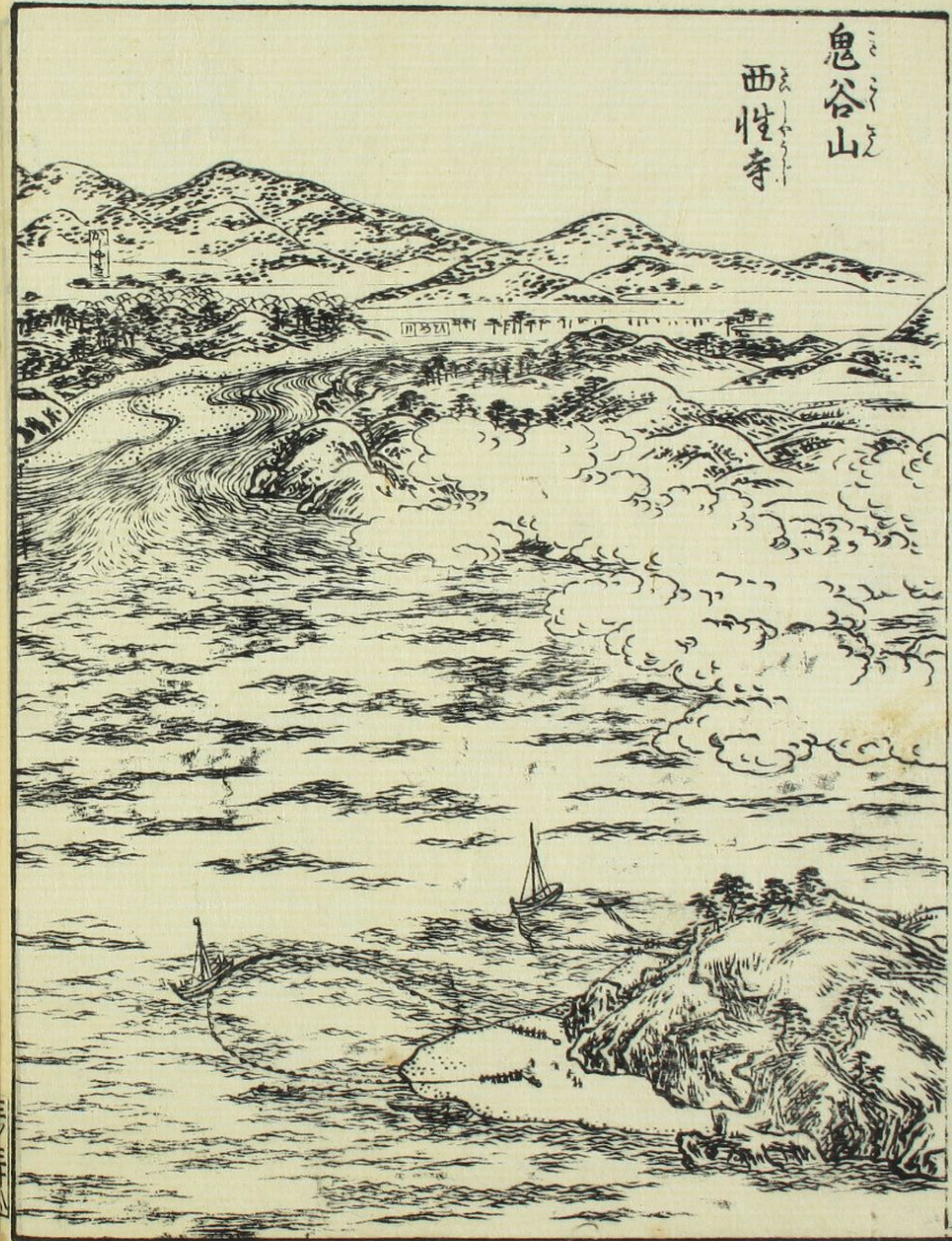
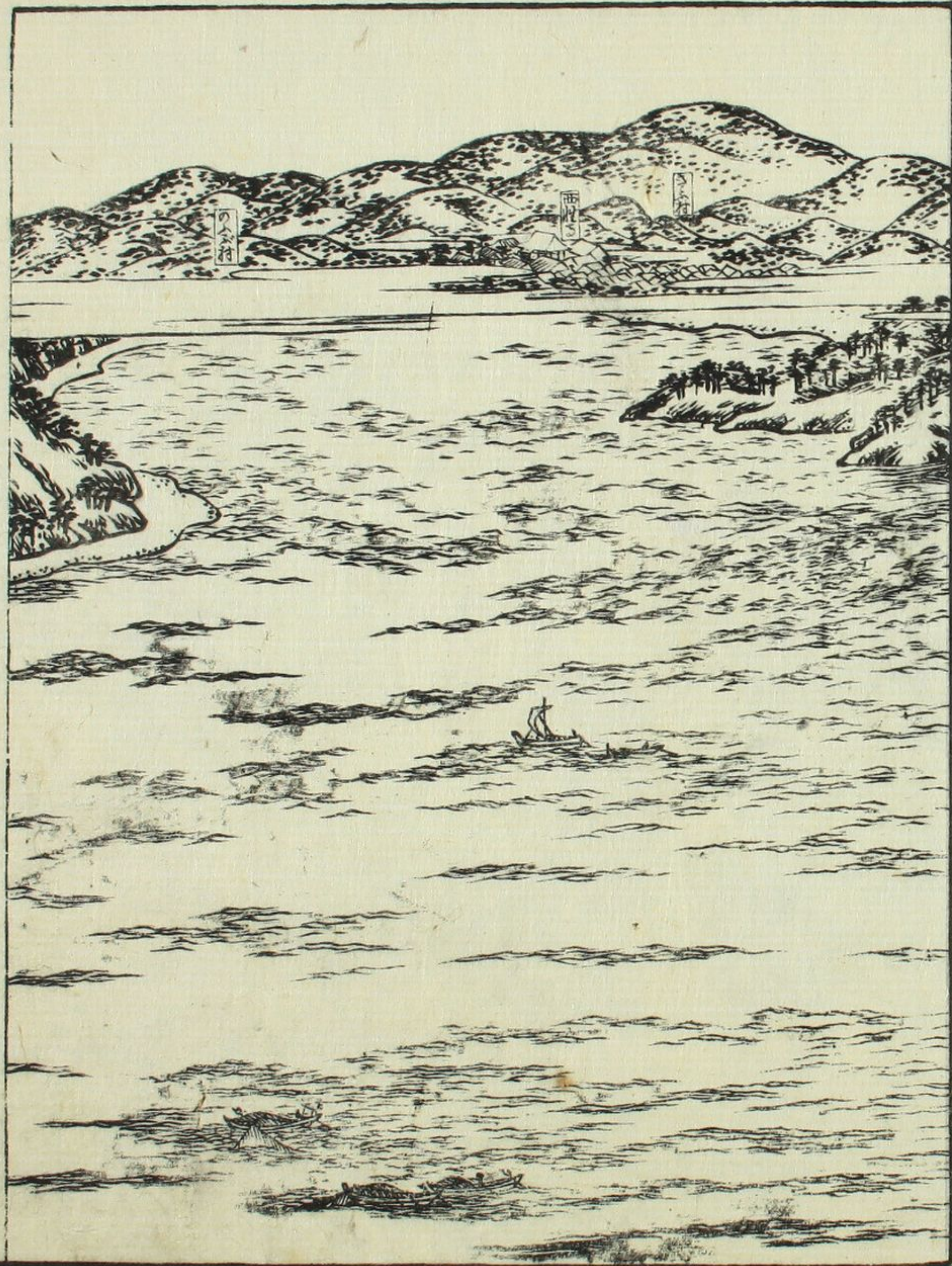
系流院家

外浪より六里半岩伏村あり

尚寺の楠田西性寺と号り本堂十三間に面奉る阿彌陀佛
佛也○往昔當國の刺史楠田出雲守祖師聖人又皈依して二心なり
 且し即聖人十字六字の名号三方四面の孫陀佛と授けり
 孫陀佛補田氏の子孫記云と号り石の寺と号り今又雲實を

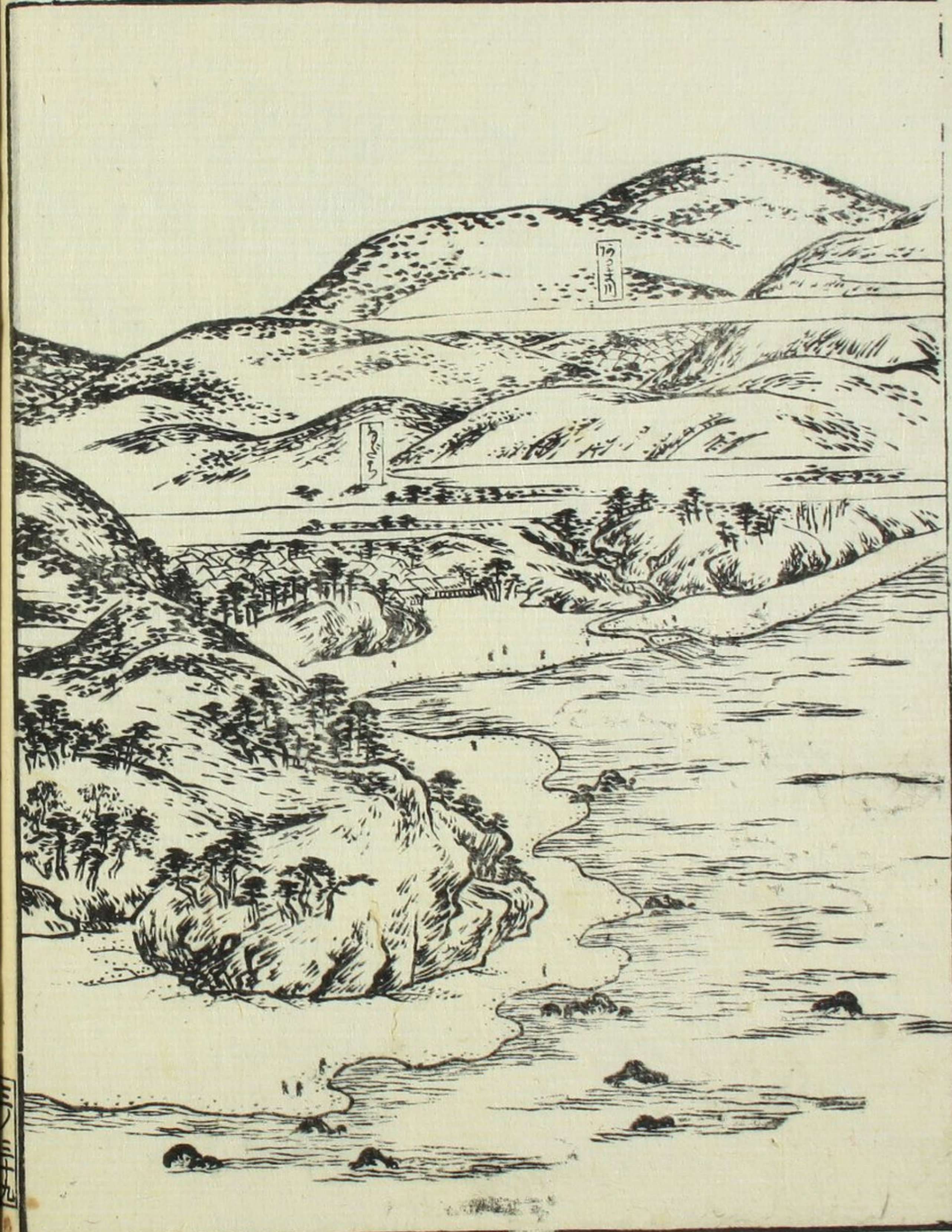
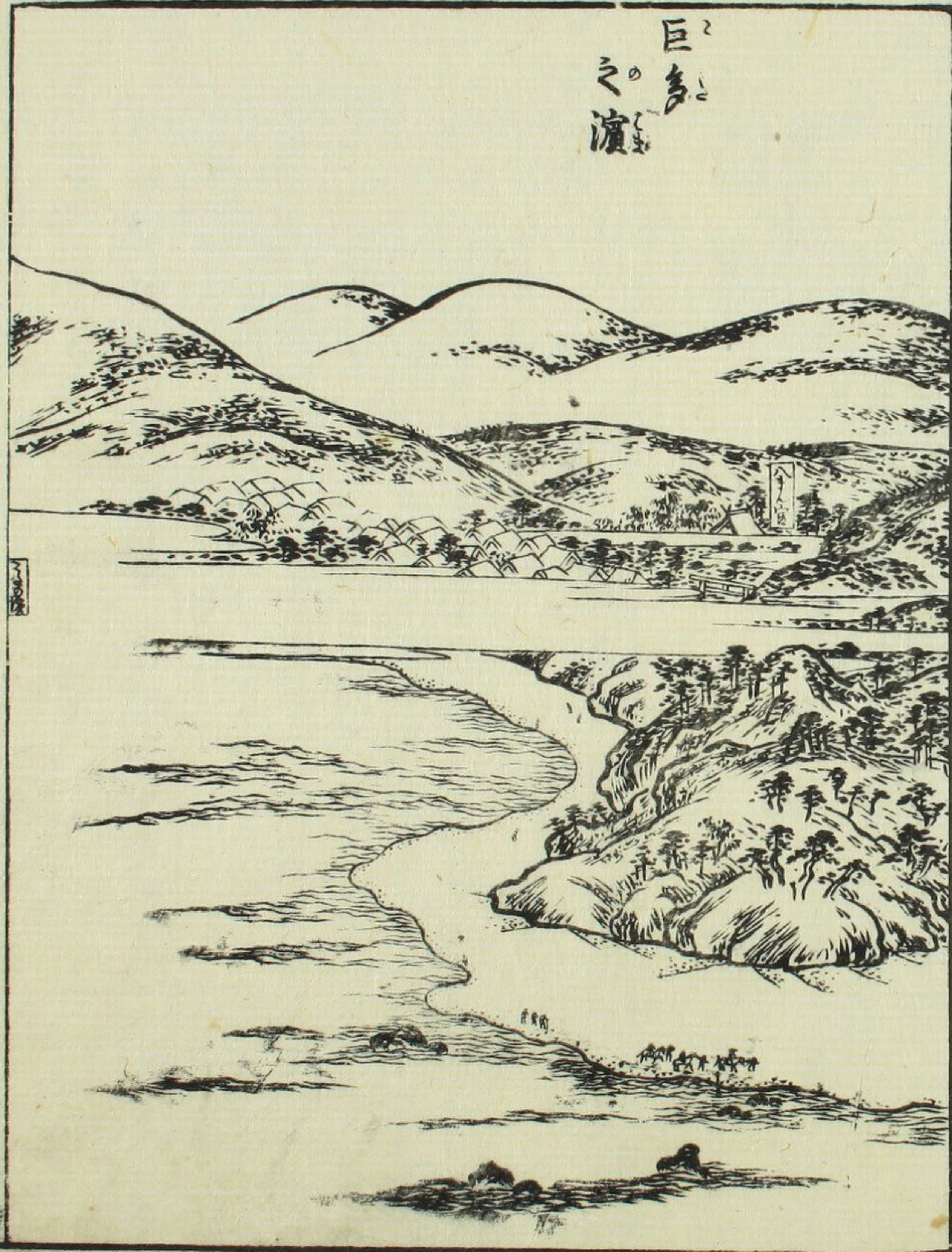
飛龍山
大雲寺





鬼谷山
西性寺

巨多
之濱



安岳より其外宝物教品これに略す

外浪と冠休の間に田海西蓮寺あり聖人より授けし紙令記十卷
名号墨紙六字名号と安岳せり

冠休村をひききて後々の名号其向ふ名号と入れ不あり上名と下名と
としていづこも彌師の家居ありまより彌師浦皆押坂と傳へる川より下石
川より人家ありて悉く彌師なり去る寛延二年の事とやけ名号なり高川
のわたり地震して名号のふりて波は海中へ落し入る小津津浪瀬津波
川は漲ると名号なる川の人教百部一附と崩と男と人年海中にせり
關死せりとや

巨多の濱

冠休より九里

古老の説云高祖聖人外浪より所立ら川々小津浦より船よ石
と八里の海とと傳へ赤岩とて石へ着岸し後此溪へとて後
し四流とせり

長川のふりて長溪ありまじり流の長溪とて秋名不之長溪とせり
ありりの難不の右の方にはまじり流とて上流源信の懸し流ありけ出
の頂と峰と著しと入るの方には弾内西とて五智の如ま堂なり

安函山園分寺

冠休より九里巨多より三丁余
剛府の内五智町あり

高寺も天右宗とて五智の如まと安岳津津深院と号く本堂
十二間八間也 聖人配流せらるる後此山に時暫く此寺の境内に在
りて即二間に方の堂に聖人沖自他の沖教像と安岳より後
かり山に後池あり聖人沖像とけ池ありて自像と彫せたり
後て鏡の池と稱は此不と竹の内の沖齋跡とて

大場村沖齋跡

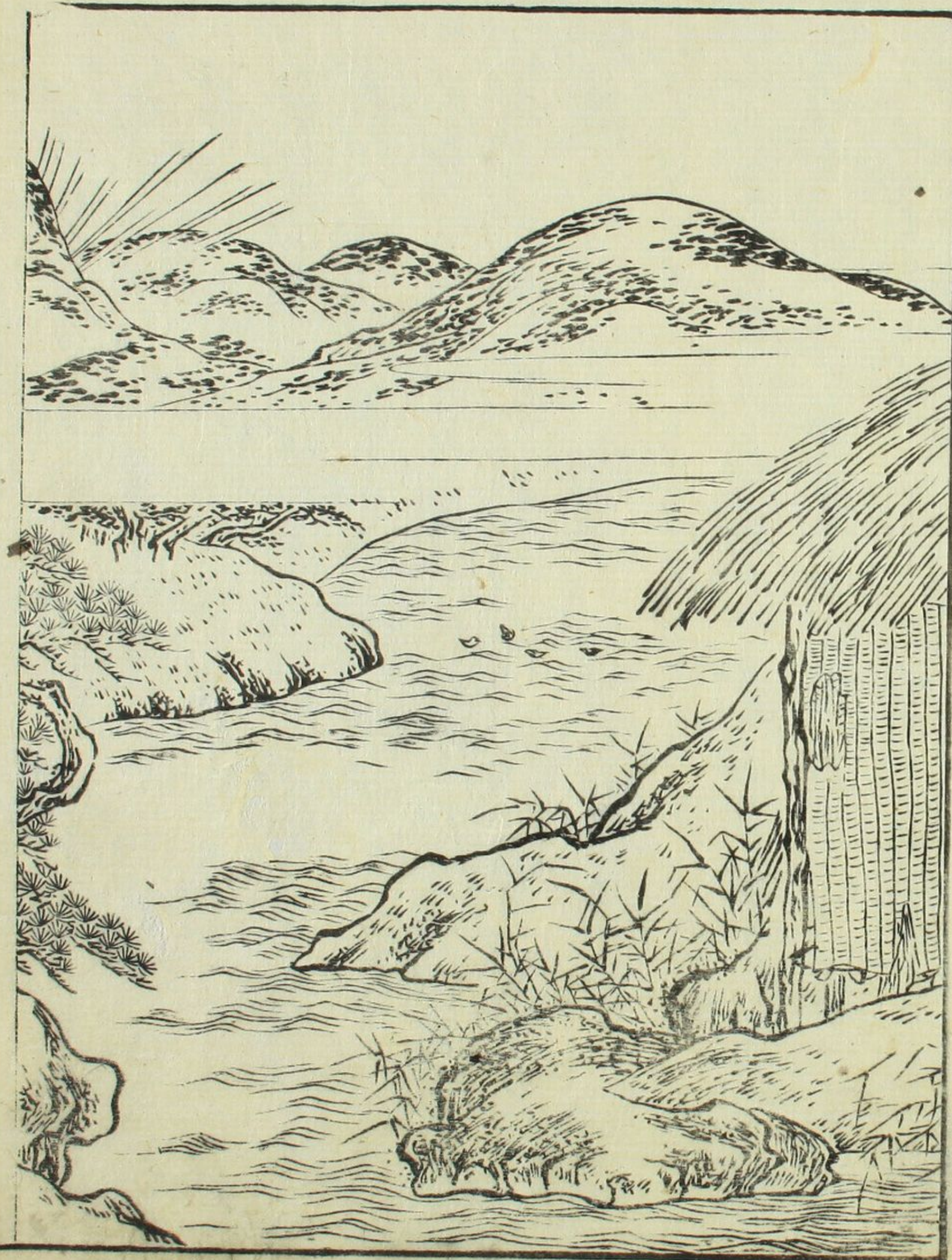
五智園分寺より丁大場村の西に在り
松葉竹の泉あり今い小丸とて

け不心後聖人左遷の沖所とて入り後い叢林の嶺峰へ石
深淵の沼を右にめぐり中へ山脚の狭き地面十歩は是れとて
即聖人の沖齋跡なり此間授けたる石に後後ける此本の菴とい
ひ聖人と入るなりとて勿許なき次有る石碑兩基を建たり 其銘曰
親鸞聖人國府五年之遺跡石燈籠延宝九年酉六月廿八日と



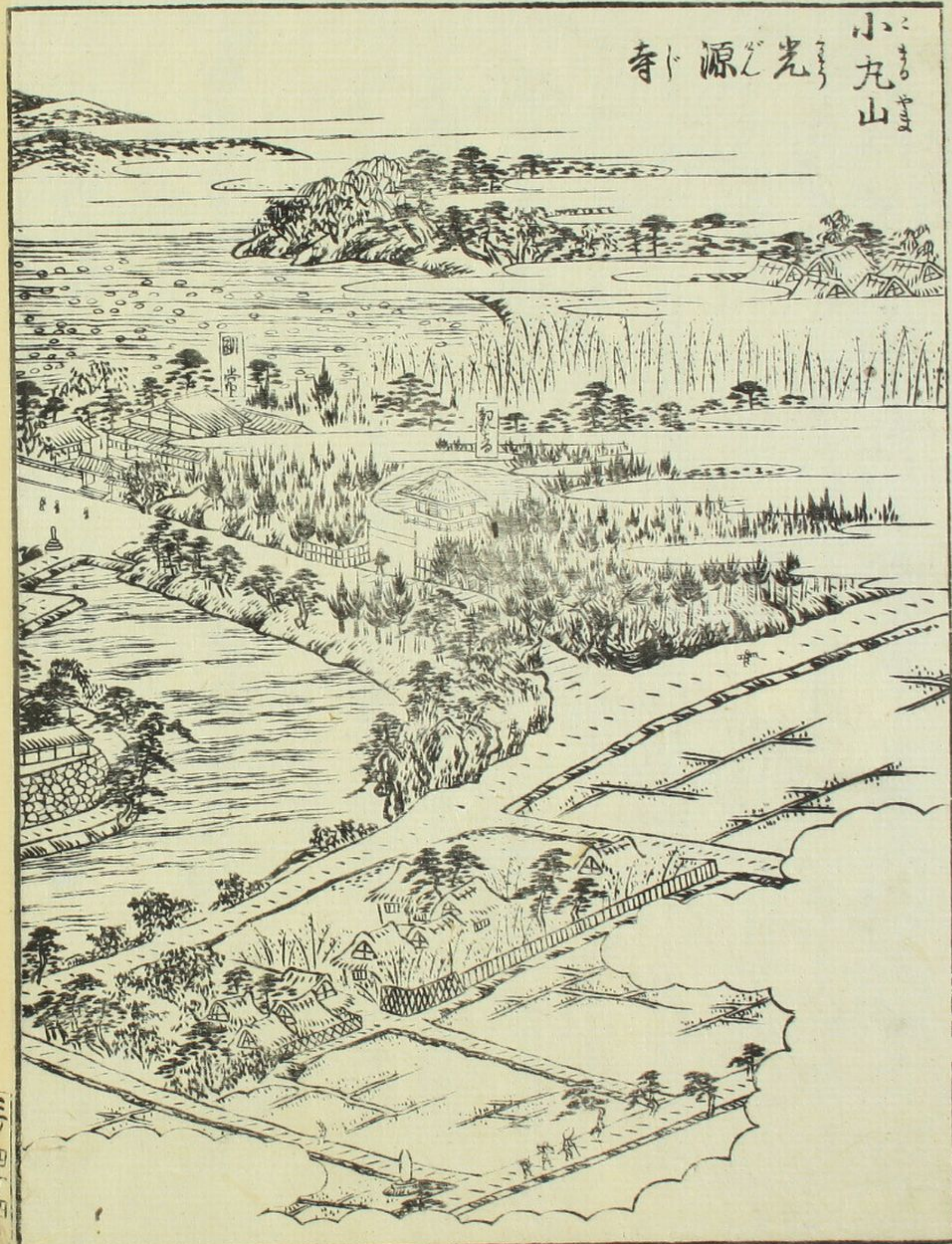
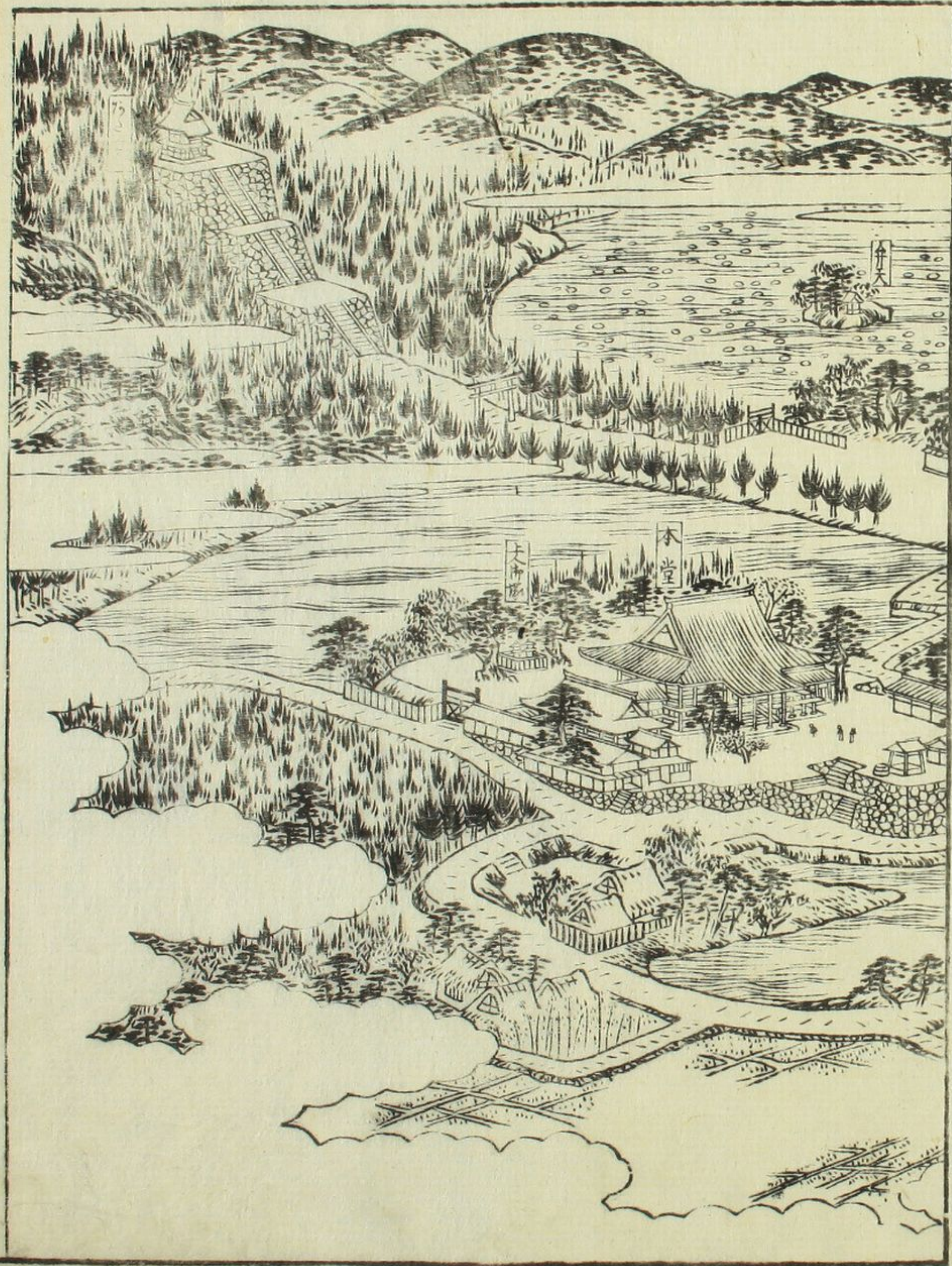
安國山
 圓分寺
 五智如來





又一基の親鸞聖人五年遺跡元々大谷本願寺奉報謝石燈籠
籠右より貞享二年六月廿八日と有り○人皇八十三代云門院
義元元年三月宗祖聖人御年三十五歳の御付け紙後乃國府
一配流せらるる山乃碓方乃垣生乃小倉又押籠らるる
日秋とこそせ給ひたる其謂と傳へ義元は美濃御痛後を治す
むせひたりぬ抑聖人元遷の附出國國府の郡代萩原民部敏
弟と云る武士は聖人と御取方乃宜く計らるる有勅命阿る
被萩原民部始めのわがは交通交信して物の怪もまゝなる者
よてまゝさはるる給るき聖人をも只為衆の衆人のぞく此山脚
いふせられ業屋と志門らひて入るる業業とせぬそしけ居の形勢
彩本の松と柱と「茅の家根」は藤を以ては方と防ぎ古越と委
物と「後後けるる居るれい風荒く吹時」藤張の壁忽破と西烈

く降秋は茅の屋根壊て御取らるるまゝなる御住居の形跡も
その居るいたつふ小跡の朝夕の藤食ふも其の居るを
加之つかりの巡りと堀まじ「水と注ぎ入るれ」誰一人も居る
人そまゝく凡の音谷の流との「撥」けて樹の梢枝とるし
唯音信ものそそい集の本に啼流の山は叫ぶ姿のそそ物ほ
御住居るもは御取らるるのそそ長くのひきせ給ひ禿乃ぞく
はしませしお自願禿と号し終入流や一竹後師乃火羅國は流
さしし我日の本乃のそそはるる其事と思ふのそそ流と
限るれは乃は後寛僧都の鬼界乃流と強さしし表はは
と海度利生のおるる流のそそ心もはしし今聖人の流刑
よ處で乃は乃の表乃の配所の御若勞と持はるる御取らるる若し乃
も皆先末代乃凡まははしき我乃が後生出離のおもそ換



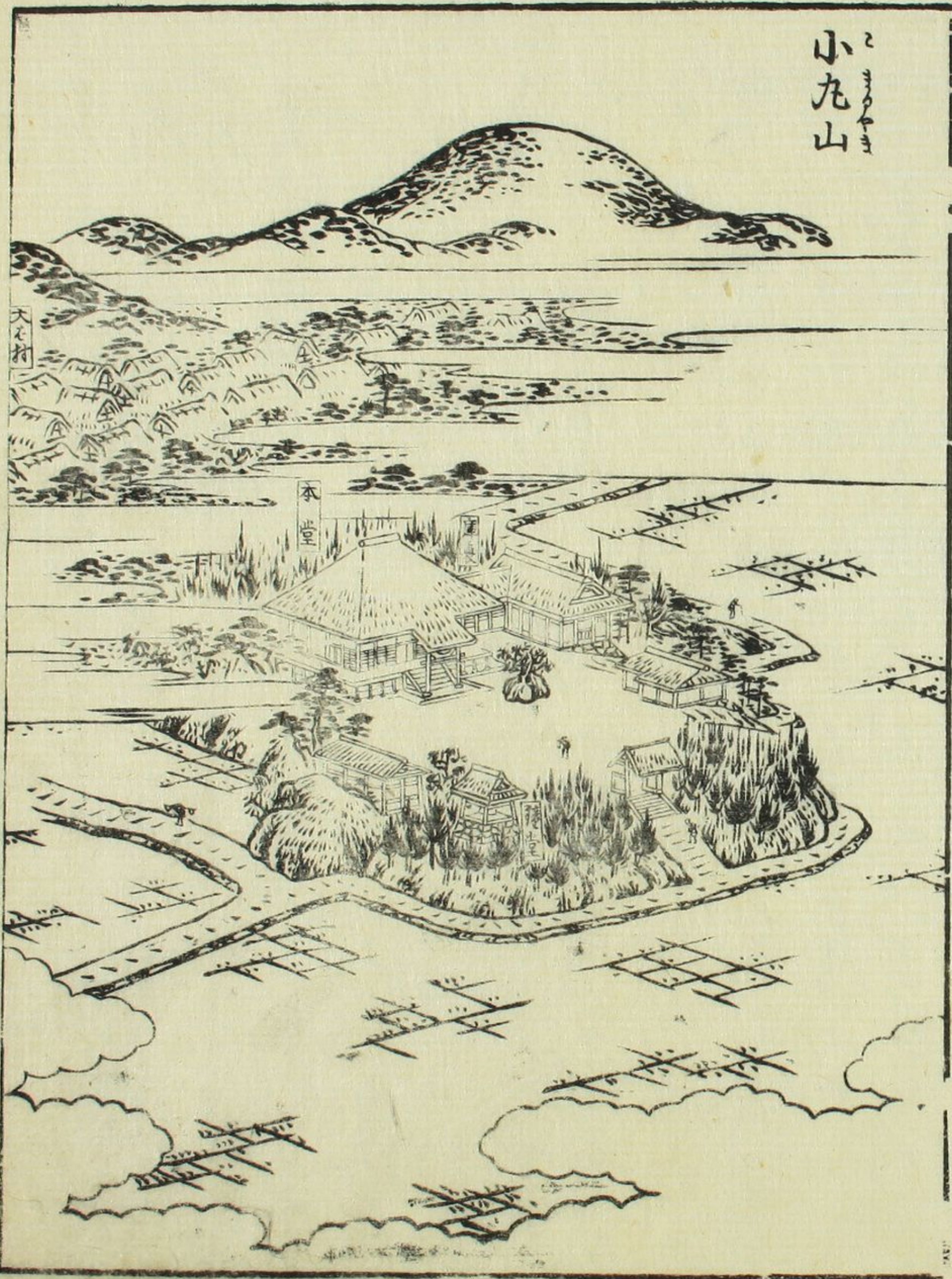
の御苦勞のたがふまはまじりかまよむ門てこれを拜まじりん物の
 そと河洞は後を後し祖師乃高恩と感てたてまつるも眞なりと
 備つた

國府光源寺

東流 五智園寺より六丁

聖人當國を遷御記所の古流の小丸山とて高祖聖人御自畫
 瓦上の御教を安んじぬ又出寺は隣りる寺も又小丸山とてま言
 宗の寺之即聖人配石の寺なりとてりるに云萩原敏景始との程
 を邪見を道の者としてあつたが小聖人を獲面りては「なり」の
 教月とてかぬる小後い聖人の高德は降依しなり御教化は致り
 二の信者とあつるとぞ故に聖人も其縁其徳に應じて出國のうら
 ちよと後住して漱度利せし終ひるふより御住居の古流は彼方
 此方と多くこれあり世人を驚かすなりと

小丸山



箕原山本誓言寺 東流

國府より一里半 城後頭院邸を面す

南山の東本誓言寺門跡の院室より即門前の幼君河邊校所
入院あり寺勢威あり後入る本堂十三間に面する阿彌陀
如來 東心傳 都の傳 塔中ハケ寺 ○彼古く中總國相馬郡布川より入るて
美言宗の寺なるが高祖聖人の遺しをり河教化と蒙り是より
河弟子より河釋教念と号し教念真宗と稱依るる其謂と
易ぬるに教念式附佛系に坐して阿字の觀法と修せしめ即心觀
佛三密瑜伽乃觀念の心を凝し一團圓周してのるるは誰云九
なく佛室の外より夢みて弘法に即身は遍照令剛の後より
終るはつと實に弥勒の出世は過ぐれば佛の極意と悟る
幸徳に故に南山の奥より入定にまゝ小末代長育の九僧はつて
觀法と號して悟道とるるのみんや多入信しくとる教念何者

たろやんと其まゝ立てるを困まれば又一人あまははまは
教念思ふらく今戸外より夢に全く人の難悟するのみと
是難の成どがたを我ら若くは大師の示言ぬしと云ふ
以何なるるん初して迷ひと道るるを得んやといふ心乃若し
けふありて伏聴びてはしむ小幸なるる祖師聖人此時禰田小
修造はましくて末世の要法弥勒超世の悲教海を弘通したる人
はしと及びいぬる聖人の河化の流で河教示と蒙りまはし
受得の身より一向專修の妙者とありぬ其後教念は信州より
郡母と箕原より入る一寺を造るる真宗寺と号しが代くと歷
て後蓮如上人の河河謂るる寺号と本誓言寺と改め其後又蓮
不(寺)と引接はしと云 ○西室高祖聖人河自畫等身の河教
河流 川城の名号 河流 河自畫等身の河教 聖徳太子河自畫河教

教念淨
真宗圖



人乃 九字六字名号 聖人の御まき 後水尾院御震轉乃名号 其外靈堂教
十品靈像古年号教まの略々

觀喜踊躍山淨興寺 東流院家 日石寺町あり

本堂十五間本号 阿弥陀如來 小建仁堂 ○ 出山ハ心要岡山親鸞聖

人開闢造建一終人の靈場よりを寺流ハ兵乱の火災ありて他國ニ

移住し又ハ武治ニ奉せり是國皇の降儀ニ仍て住地と他邦ニ移り

とハ高祖傳来の寺系相義の什宝歴代として現ニ存在ス

末下の寺院百餘ヶ寺と括り 柳高祖聖人開闢一終ハ建仁と

見り小聖人浄年ハ十歳乃浄財浄治りて都ニ真心寺と建仁

一終ハ浄年乃冬ハ即建曆二年 常州小治の郡司武弘が宅ニ

向はしつゝ乃に及年の間信州上州筑後乃造と浄化を奉りて既ニ

建保五年正月より日國稻田の郷ニ奉りて終ハ幽栖と名ハ

道信蹟と爲の遺戸を因とて人々を度脱し瀝る此時聖人仰らま
て曰佛法弘通の本懐を小成し衆生利益の宿念忽に瀝る
以當勅養を救世菩薩の若命と受しり已に今も存合せりとそ
御教院のたるがけ附は當國の御弟子御門系の輩類より一字と
御建立の儀を教ひもる聖人甚御教びもる即常陸國笠間郡編
田の郷雪谷といふ所に一字を創建して歡喜踊躍山淨興寺と名け
十余ヶ年の同居住みもるを往返し御化道はるせ給ひははが
考よ貞承元年の春聖人御年六十歳ありて編田の御坊と御教院をせ
らる御傳活のるを極き終り御坊を御弟子若性上人に譲りて人
は若性上人をといん人の流は御人皇八十二代の聖人後鳥羽院中三の
皇子とてましませしが叡山と登り出家して周觀と号しける修學
の功獲り御徳良秀移ひるが頻りに後遺の志おして山をりり

諸國の御脚を考よ下總國に到て國を豊田に即治親が傳よ留
りしが若國又値のまほしや高祖聖人因東御化通の幸とてまほし
建保六年御年二十歳ありて編田に到り聖人乃御教示を蒙り
御弟子とありて聖人より法名と若性と授け終り既よ若性上人の
淨興寺第二代の住持として聖人の遺法と弘通したまひははが
文永五年八月廿日御年七十歳ありて大徒生と遂終ひぬ其後此編
田淨興寺國弘兵火の災よりを惜く總州磯部より人々を靈場と
移しりしが再び信州長沼に寺株と引りして再建ははが淨興
の軍より寺院の回箇三々貫寄附ありて嗣に相續し教代を歴りり
尤も永承元年川中流に軍ありて焼入りや兵火のるを寺院遷り
回極に其附の寺勢回箇寄附の要付と名おさんとて堂中に入入
後火のるを焼死せり其息巧因末五歳にたる寺僧守持し寺

系乃古書室物諸もよこれを抄り小市と入る里は幾居し
くが謙信の信州を領せし時改めて別府と入る石の寺と當
上板景勝の時當國春日山の麓又方百間の地と寄附ありて
爰又引移以極久古即當國知の時又福崎へ移住せしが暫して
上建奴領地の時又今の此地へ移て方百間の境地と得たりと

○靈室九字名号 細紙金泥 聖人御 六字名号 聖人御 上宮古子真像 祖師聖人御能

福田の 蓮座御歌 親鸞上人若性上人 御奉る 二十一條制狀 祖師聖人御真像に 御奉る 寺号の類 祖師

○川城名号 川城の名号は祖師聖人の 御奉る 祖師聖人國府はましまし其時處に

いふ石に老うるま塚のものなり聖人の御教化を蒙り信心堅固也
乃が 一はうは太陽村の 老ま塚 或時雙一人國府(系流)にこれに聖人下機後へ
移らせ給りんとくもや唐室と出給り又雙河名所を楷となり姥

と御暇をさせや度とく急ぎ立降り姥かくと造しくは姥は
移るといふ小聖人のや御出唐極はましましとや婆が兼て移ひ
なるなりとさし(い)まうて御暇をやらんとく聖人の御教と慕ひ
小俣川の川端小引し又聖人のや川と流り岸の上まをのあり
給入婆はけ方の岸はあまがく夢と揚げて御名所と楷となり阿
と御記念のり名号と揚りましましと歩款きて移るよぞ聖人姥が切
かり志と感じ給ひ仰らまらるる老女の身のいそや此川と流り来
らん其方こそ紙と披くは名号と書て得るはと宣ひつらふ
婆の教ひ聖人の仰り後ひ懐中より一紙と出物一川の向ひて押
ひらき聖人のましまし方又向て給るなり聖人其まき名と楷給ひ
てけ方よりさらくといふ字の名号と書給るに不思議なるなりと
とよ廣き川と城六字の名号と書らるるくと移らせ給り老女を

川城乃
名号



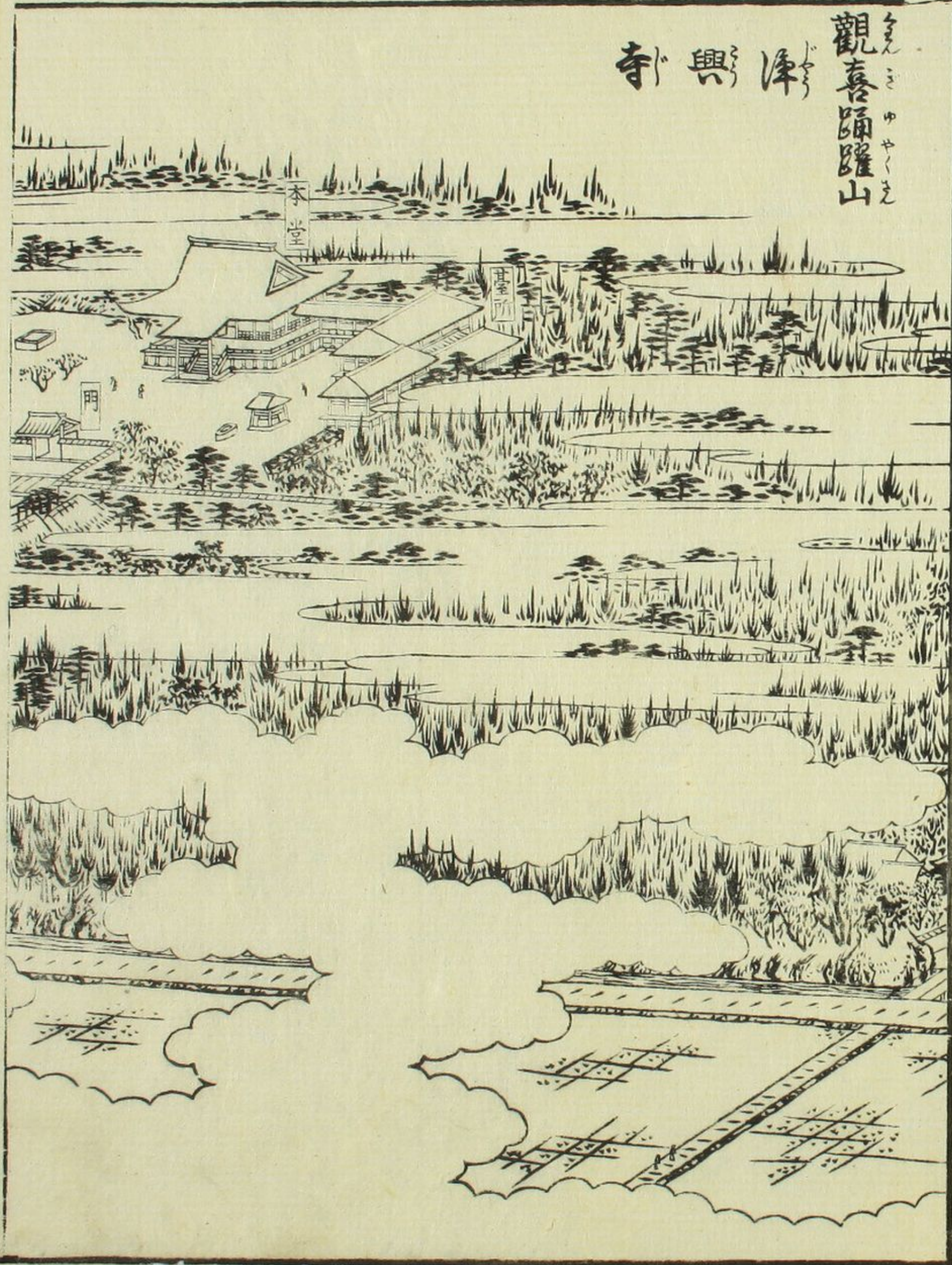
奇異の思ひとあり押裁きく大地といひは休泰い欽びきり後
く沖別と告げて立入り奉の始終と受り物語り彼名号と
拜せられは受り五体と地と投り欽ひの流いせうういよく
敬いしころが奉と歴て彼花ま婦が子孫形態し縁に仍て出
の靈室とあり是と川流の名号と稱しころうまうり。此外聖人
の沖真肯教十粒 聖人沖真年乃書蹟或は靈像靈年
聖人沖不持の法具惣して教十品宝物と傳素せり

中戸山常敬寺 東流 院家 日本寺町より

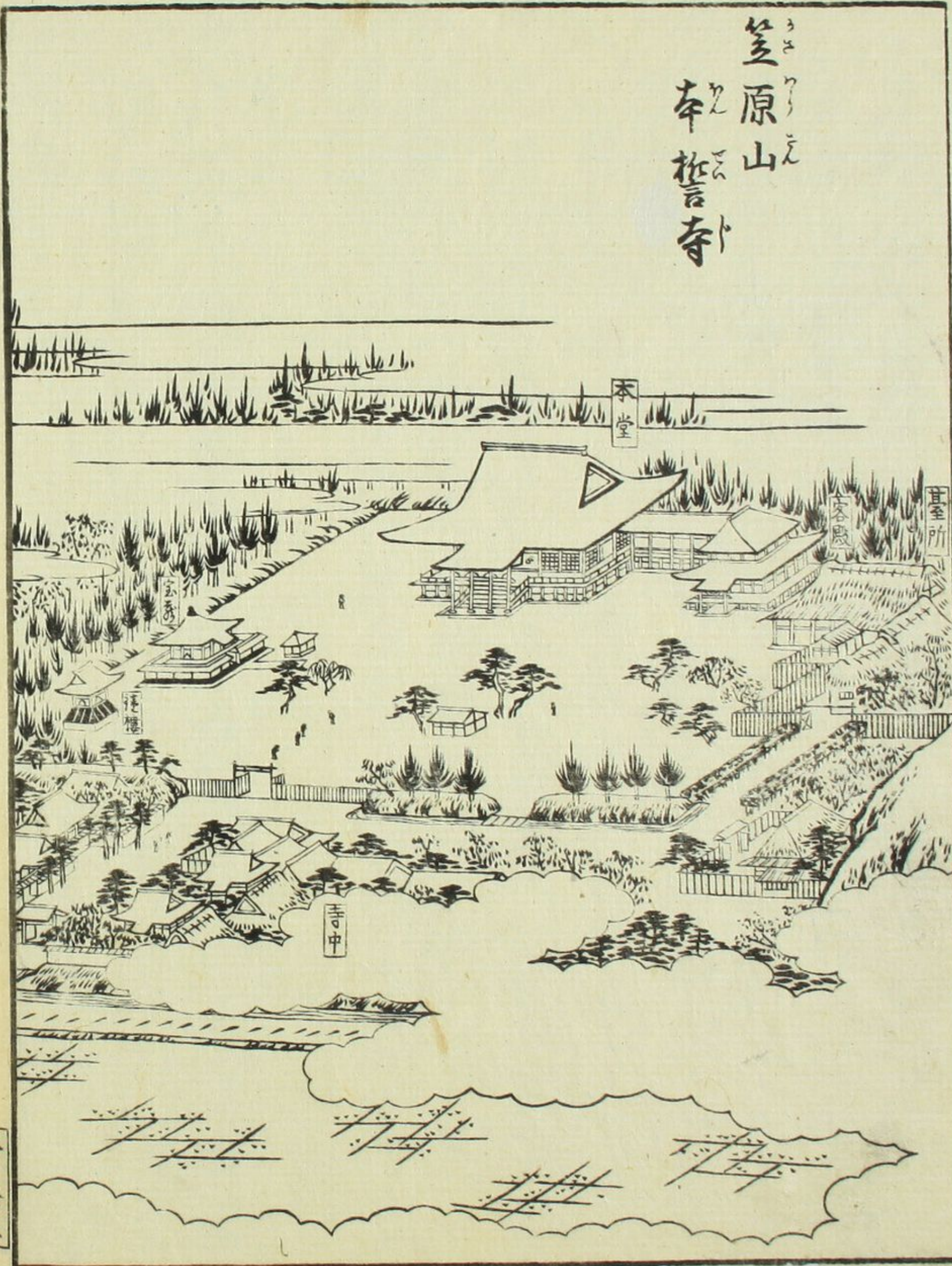
尚寺の西光院と名づく本堂九間に面奉る相好附阿弥陀如
来 安阿弥 塔改二區 ① 彼若高祖聖人の沖直孫唯若上人開
闢りる道場之唯若上人と千に親鸞聖人の沖息女 信元
の沖息男うして沖又の小我宮禪念坊の沖種若惠上人沖同胞

より 是惠上人の沖又の 日神廣細御より 如信上人の大谷本願寺并二の沖俊藏又たら
後へとも奥州大綱教入寺又下向きしして沖化益ありころふより
大谷沖本願の覚惠唯若の両上人南小又候して守護し終る
惠上人の徳治二年に月十二日六十九歳にして入寂し終ひしが
爰より三年又出でて延慶二年の春唯若上人相州常盤と
しりあて下向りて教道し終る 奉安の教手後一期祀 恭取修詞考より見ゆ 于時鎌倉の軍
惟康卿唯若上人を海く為敵し終ひ度く聞法乃益み致し
終ひるる依て唯若上人関東に化益し終りんとて沖堂造管
のりをぬ軍一言とありしは即ぬ軍の沖斗いにして下總の國
関宿又抄ひて大伽藍と建立あり附の天子花園院へ奏聞と遂は
らる中戸山西光院と勅額を賜りり宗法専ら仕んたり
并に世若宗法師の附京都大谷沖本願又遠背りたりと

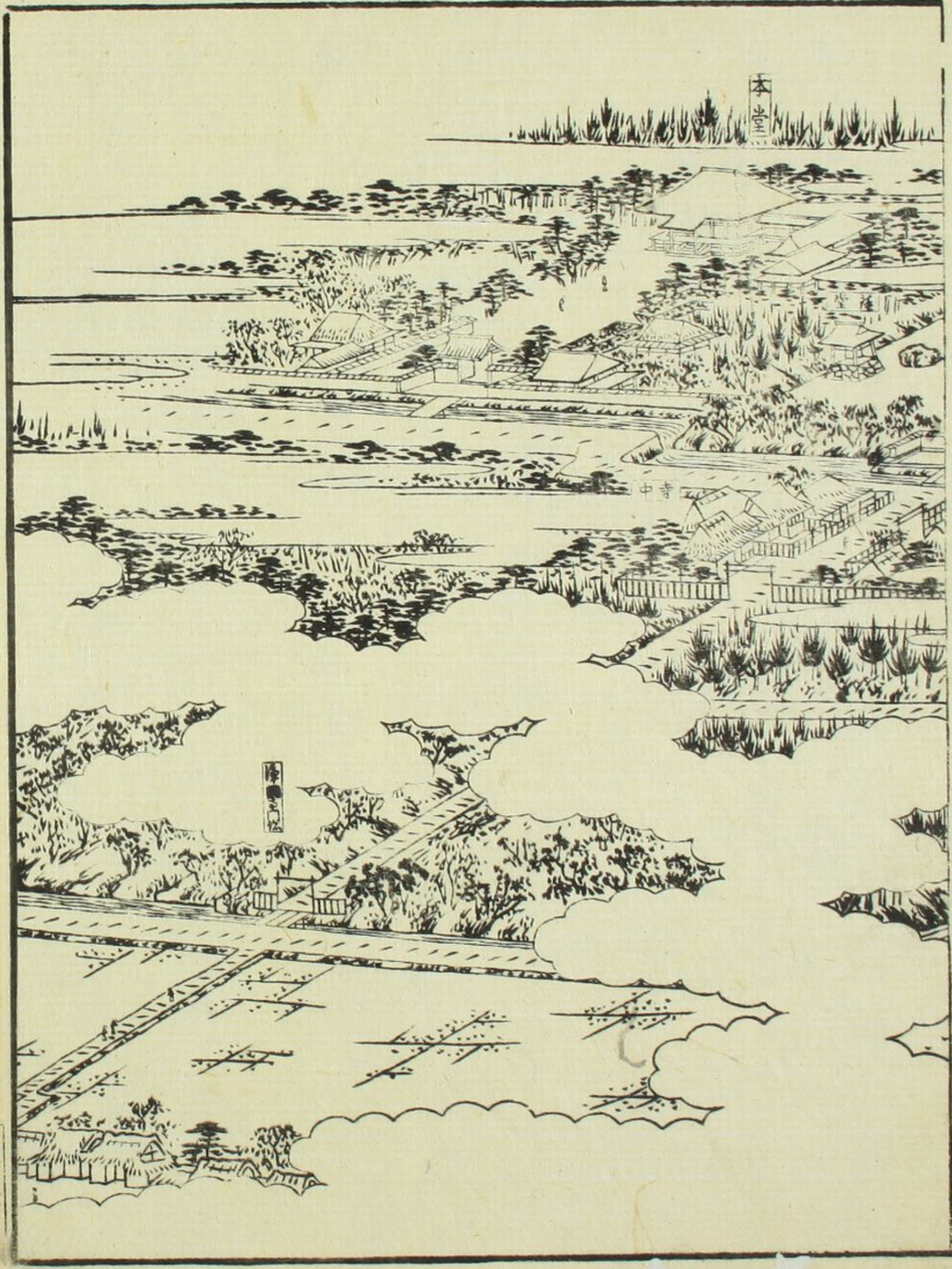
浄興寺
 觀喜踊躍山

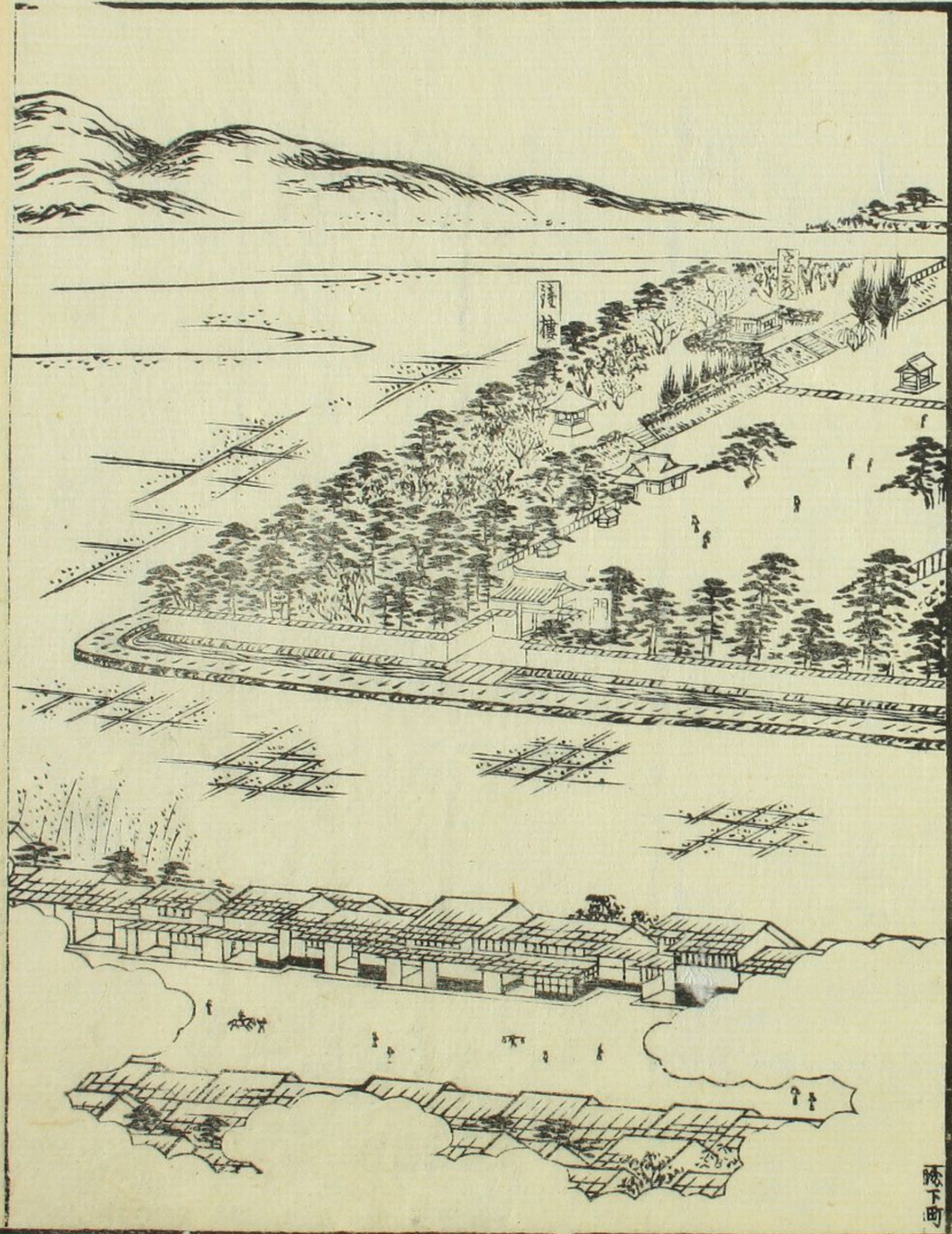


笠原山
 本誓寺

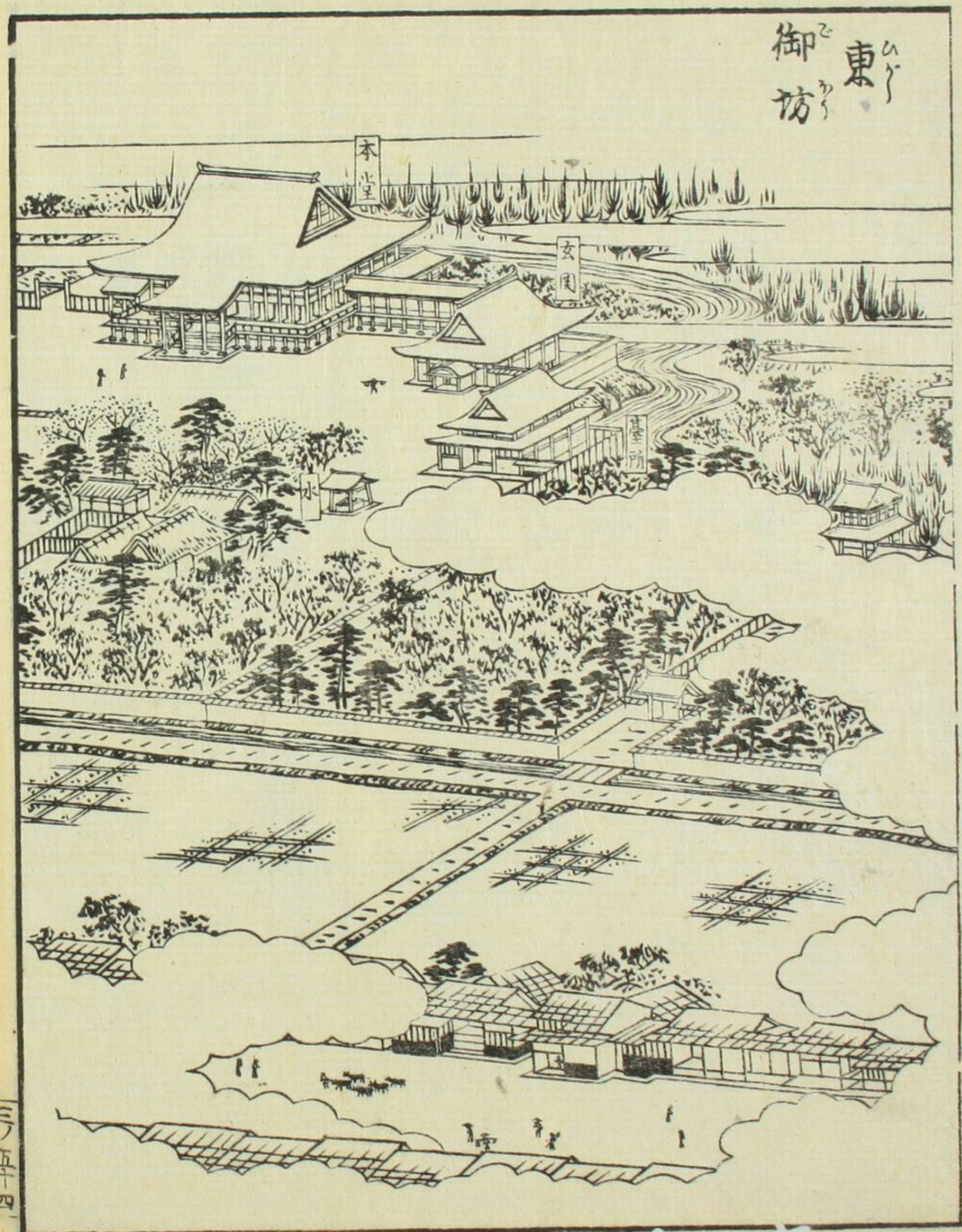


中戸山
常敬寺

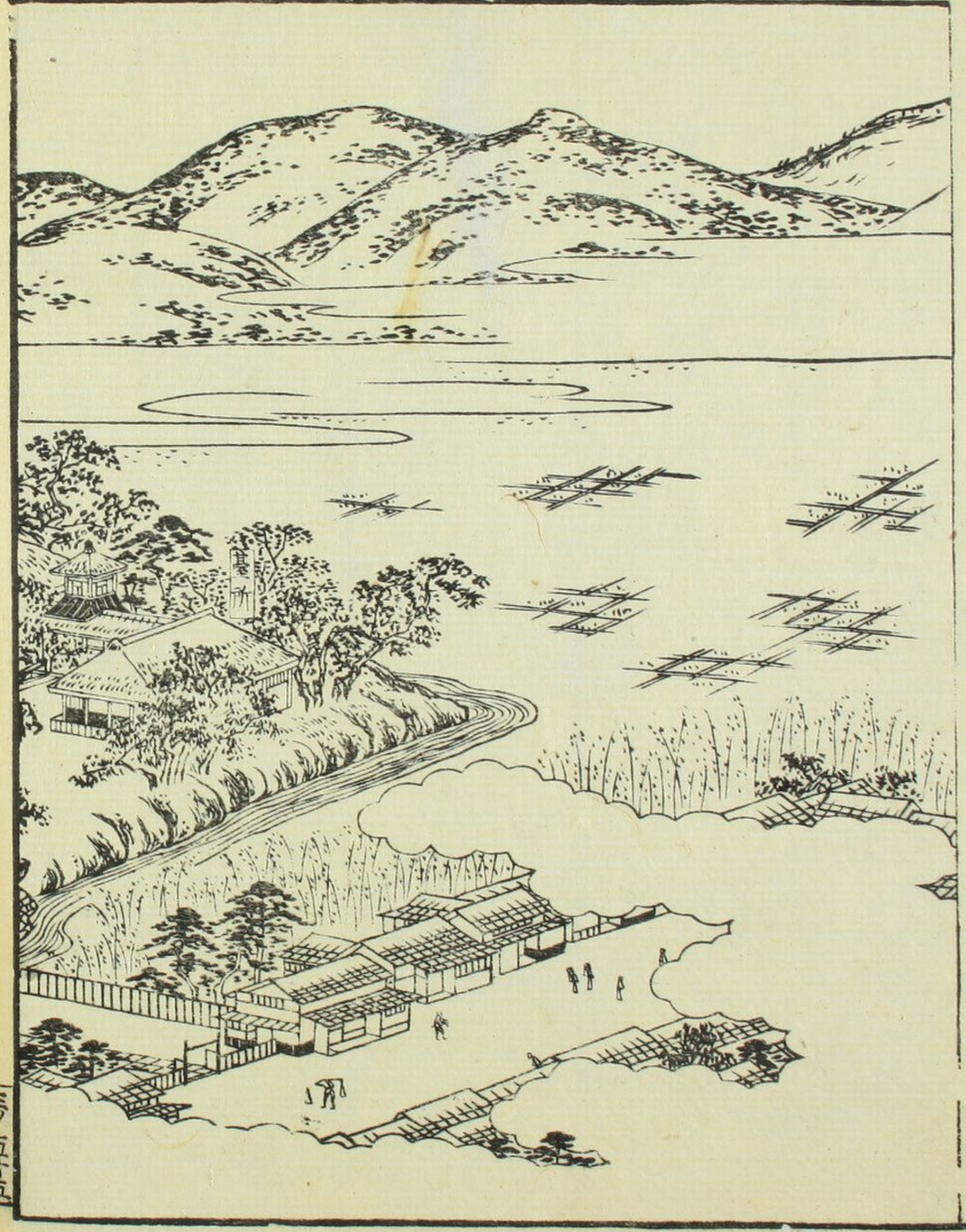
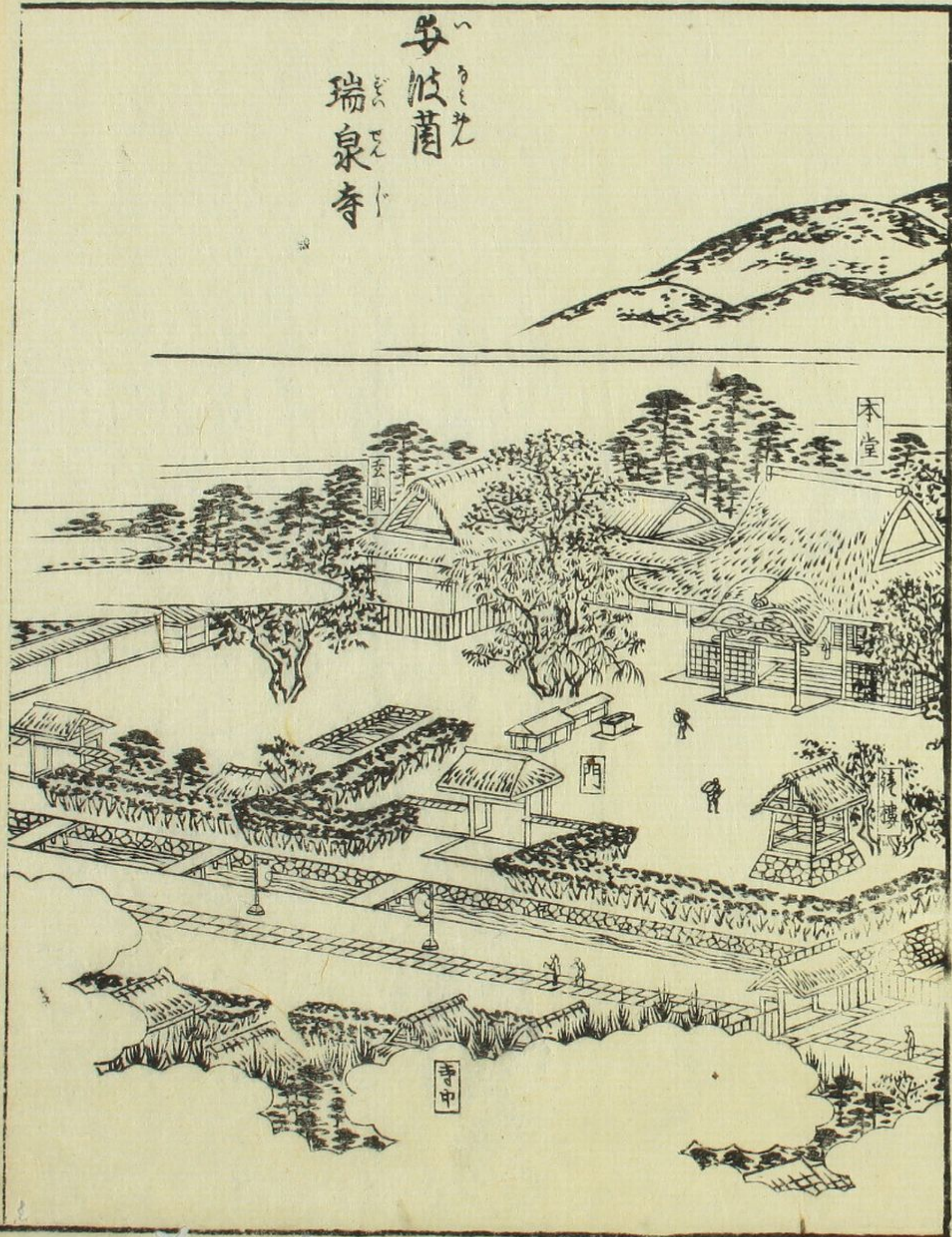




東御坊



瑞泉寺
瑞泉寺



第六世若然の付蓮如上人又版版して即蓮師より常教寺と号
と揚人其後代くと經て天正年中遺寺十世了願の付豊臣秀吉
と小桑家と對陣の砌中戸山兵火の爲小回派と及びり
て此所の院と移し今又嗣法相兼氏と云 聖宝丸本の阿弥
陀佛 聖徳太子十七歳の
御地是御佛と稱ん 簾の番号 聖人一カ三礼の御地より日本一區
の多像之名并不離の番号より 新羅王
中戸山の筆記 聖徳太子の像 聖人
御地 其外宝物教不略

性宗寺 佛光寺流 日所あり

當寺の高祖聖人御自畫の真像と安坐せり是聖人三十八歳
の御時乃御真像と云々葉屋の因又御衣と云々乃御衣は
て傍に勅勅の御衣と稱し乃御衣は乃南無阿弥陀佛於
城後祀所是乃國府畫之兼元丁卯年五月六日善信と云々乃
乃

舟波園瑞泉寺 西流院家 日所春日町あり

後小松院勅額所奉堂十六間口面なる 春日 十七多連座の御教
如信上人 塔中にヶ寺 經苑一區 寺系に城中國瑞泉寺日系に
て奉教寺第五代綽如上人御建立の引地之又當寺の磯部勝成
の別院也と云々乃流と云々乃先師遺跡福と記と云々乃

東流御坊 日所あり

奉堂十三間口面

月原山明專寺 信濃國水内郡柏原あり 城後園を回より荒母松崎園山二樓
間川まで里流九八里半は不城後と信濃の境に城後多田より信州

御齋院の縁祝の信濃國乃都又委く見也以下の寺院準之

祝石山願法寺 柏原より一里半
日國日郡新野村あり

善光寺 新野より三里
日國日郡あり

布野長命寺

長命寺より一里
日國日郡柳原庄南邊に在る

成田山西殿寺

南邊より三十丁
成田庄長沼に在る

平林山を抵言寺

長沼より五里に在る
信州垣根郡高木庄松代に在る

柴阿弥陀堂

松代より半里
日國日郡芝村に在る

白鳥山康樂寺

芝村より二里に在る
日國日郡海津庄長沼郡南圓村に在る

大宝山正妙寺 東流

長沼より十二里
日國龍平郡府中松本に在る

大宝山正妙寺 西流

日國日郡日所に在る

本曾山長稱寺

日國日所に在る

○信州松本の城下より浦坂坂本戸倉と経て再び長光寺へ出て之の街
道と城後の三田へ入り坂下城後を過り出羽國へ出ると九城後の三
田より信濃國長光寺へ往來の里數三十三里余又坂下松代長沼南
邊の旧法を順稱といはれ道法を以ては十六里あり
○或は城後の長沼より三田へ出でて溪邊とてぐま今所柿崎縣波拍
出雲寺泊ること経て新沼より新沼田より柿崎の河川と稱
し長沼の城下信州川と流り除宮方妙法寺村多とて再び相傍へ
出て夫より高田の城下を順稱し本文のごとく信州へ飯盛松本より直
に園東の方上野園へ入りありけり河川旧法を以ては三十三里の園の都
々一一記とるれば考へ合せざるべし

